

富田林市文化財調査報告86

中野遺跡

— 都市計画道路若松西線建設に伴う発掘調査報告 —

2024. 2

富田林市教育委員会

例 言

1. 本書は、富田林市教育委員会が富田林市都市整備部都市整備課（当時）の依頼を受けて実施した、都市計画道路若松西線建設工事に伴う中野遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査当時は一帯を中野遺跡と区別して中野新堂遺跡（略号NNS）としていたが、包蔵地範囲の拡大により、後年中野遺跡と統合している。
3. 平成2（1990）年度に事前の確認調査を実施したところ遺構の存在を確認したため、平成3（1991）年度に本調査を実施した。以降も同様に確認調査の翌年に本調査を実施し、平成5（1993）年度に現地調査を完了した。調査は富田林市教育委員会社会教育課（当時）の職員が担当した。
平成3年度（第1次調査：NNS91-3）中辻 亘・田川 友美
平成4年度（第2次調査：NNS92）中辻 亘・田川 友美
平成5年度（第3次調査：NNS93-1）今西 淳・田川 友美
平成6年度（第4次調査：NNS94）今西 淳・栗田 薫
4. 整理作業は平成3年度から平成7年度にかけて実施し、遺物実測は田川・楠木 理恵・秋山 敦子・頓宮 貴美恵、栗田が行った。
5. 現地調査から長い年月が経過したが、令和3（2021）年度から当時の図面や草稿をもとに報告書作成に着手した。執筆及び編集は青木 昭和（富田林市教育委員会文化財課）が行った。
6. 出土遺物および実測図は富田林市教育委員会文化財課で保管している。広く活用されることを望む。
7. 調査にあたって、土地所有者をはじめ関係各位のご理解、ご協力を得ました。
また、調査にあたって多くの方々からご助言をいただきました。ここに記して感謝の意を表します。

凡 例

1. 本書に用いる遺構名称は、SD（溝）、NR（自然流路）、SK（土坑）、SX（不明遺構）、P（ピット）である。
なお、遺構番号は調査年度毎に番号を付している。
2. 遺構一覧表に併記した略号のうち「LN」は調査当時に使用していたもので、LN1～LN6は各層の堆積順序（Layer Number）を示し、LN1以降は、それぞれ個別の遺構の位置（Locus Number）を示している。
出土遺物にはこの略号を用いて注記し、出土位置が記録されている。
3. 遺物は、整理の都合上、土器類・土製品と石器・石製品に分けて、調査年度の古いものから通し番号を付している。
4. 挿図の方位は磁北を示し、縮尺は図中に記載した。また、図版の縮尺は図中に示したとおりである。
なお、打製石器の両面を図化したものは、本文の記述において実測図の左をA面、右をB面としている。
5. 調査当時の資料からデータが遺漏していた部分は復元不可能なため、表中の該当欄を空白としている。

目 次

例言・凡例	
第1章 調査に至る経過	1
第2章 位置と環境	
1. 遺跡の立地と既往の調査	1
2. 周辺の遺跡	4
第3章 第1次調査の成果 (NNS91-3)	
1. 調査概要	5
2. 遺構	5
3. 出土遺物	7
第4章 第2次調査の成果 (NNS92)	
1. 調査概要	11
2. 遺構	11
3. 出土遺物	14
第5章 第3次調査の成果 (NNS93-1)	
1. 調査概要	23
2. 遺構	23
3. 出土遺物	28
第6章 第4次調査の成果 (NNS94)	
1. 調査概要	30
2. 遺構	30
3. 出土遺物	36
図版	

表 目 次

第1表 NNS91-3土坑・不明遺構・ピット一覧	6
第2表 NNS92土坑・不明遺構・ピット一覧(1)	13
第3表 NNS92土坑・不明遺構・ピット一覧(2)	14
第4表 NNS93-1土坑・不明遺構・ピット一覧(1)	25
第5表 NNS93-1土坑・不明遺構・ピット一覧(2)	26
第6表 NNS93-1土坑・不明遺構・ピット一覧(3)	27
第7表 NNS94土坑・不明遺構一覧(1)	32
第8表 NNS94土坑・不明遺構一覧(2)	33
第9表 NNS94ピット一覧(1)	34
第10表 NNS94ピット一覧(2)	35
第11表 NNS94ピット一覧(3)	36

挿図目次

第1図 調査地と既往調査	2
第2図 富田林市内遺跡分布図(2022年現在)	3
第3図 NNS91-3基本層序(第2区南壁東端)	5
第4図 NNS91-3調査区平面図(第1次調査)	5
第5図 NNS91-3 SX4・SX6出土遺物	7
第6図 NNS91-3出土遺物1(土器・瓦)	8
第7図 NNS91-3出土遺物2(石器)	9
第8図 NNS91-3出土遺物3(石器)	10
第9図 NNS92基本層序(東壁南端)	11
第10図 NNS92調査区平面図(第2次調査)	12
第11図 NNS92 SD12・SD14出土遺物1(土器)	15
第12図 NNS92 SD12・SD14出土遺物2(石器)	16
第13図 NNS92 SD12・SD14出土遺物3(石器)	17
第14図 NNS92 SD12・SD14出土遺物4(石器)	18
第15図 NNS92 SD7・P3・P13出土遺物	19
第16図 NNS92第2水田面出土遺物1(土器・土製品)	20
第17図 NNS92第2水田面出土遺物2(石器)	21
第18図 NNS92第2水田面出土遺物3(石器・石製品)	22
第19図 NNS93-1基本層序(東壁中央)	23
第20図 NNS93-1調査区平面図(第3次調査)	24
第21図 NNS93-1出土遺物1(土器)	28
第22図 NNS93-1出土遺物2(土器)	29
第23図 NNS94基本層序(南壁中央)	30
第24図 NNS94調査区平面図(第4次調査)	31
第25図 NNS94出土遺物1(土器・瓦・土製品)	37
第26図 NNS94出土遺物2(土製品・石器)	38

図版目次

図版1 (上段) 調査地遠景(東から)	(下段) NNS91-3第1区全景(東から)
図版2 (上段) NNS92調査区全景(南から)	(下段) NNS92 SD12・SD14拡大(直上から)
図版3 (上段) NNS93-1 I区全景(南から)	(下段) NNS94 I C・II A・II B・II C区全景(東から)
図版4 (上段) NNS91-3 SX4・SX6遺物出土状況	(下段) 出土遺物(須恵器)
図版5 (上段) 出土遺物(須恵器・土師器)	(下段) 出土遺物(石器・石製品)

第1章 調査に至る経過

富田林市都市整備部都市整備課（当時）において、若松町西一丁目と同二丁目にある既存道路を拡張する形で「コ」の字状に伸びる都市計画道路若松西線の築造工事が計画され、予定地内において遺構の有無を確認するため事前調査を実施した。その結果、遺構が検出されたため、本格的な発掘調査を実施することになった。

調査は1991（平成3）年度から1994（平成6）年度まで3か年にわたって実施した。

第1次調査は、コの字の下辺にあたる既存道路の北側と南側の拡張範囲を調査対象として1991（平成3）年度に実施した。第2次調査は、1992（平成4）年度に、第1次調査の東端に取り付く既存道路の東側を拡張する形で調査を実施した。第3次調査は、1993（平成5）年度に、第2次調査の北側延伸部分の道路拡張範囲を調査対象として実施した。最終年度となる1994（平成6）年度の第4次調査は、第3次調査の西側に取り付くコ字の上辺にあたる既存道路の北側と南側の拡張部を調査対象として実施した。

いずれの年度も道路の拡張部分での作業となるため、工事の進捗にあわせていくつかの調査区に分割して発掘調査を実施している。これは、発掘に伴う排土置き場や道路に面した住宅の出入り口の確保などの事情による。

現地での発掘調査が終了した後、調査図面や遺物の整理作業を1995（平成7）年まで行なっているが、その後も市内での発掘調査が続いていたこともあり報告書の作成作業が進まず、ようやく2023（令和5）年度に本書刊行に至ったところである。残念ながら、当時の調査担当者はすでに退職しており、当時の調査日誌や一部書類の所在が不明となっており、本書作成にあたっては確認できる範囲での事実記載にとどめている。

第2章 位置と環境

1. 遺跡の立地と既往の調査（第1図・第2図）

中野遺跡は、市域のほぼ中央、南から北に貫流する石川の左岸に形成された河岸段丘上に位置する遺跡で、中野町から若松町、若松町西にかけて、東西約1.1km、南北約0.9kmの範囲に広がっている。

遺跡の存在が知られたのは、1892年に「河内に於ける石器の新発見地」として雑誌で紹介されたのが初見である（山崎1892）。1970年には、温室ハウスの建設中に多量の遺物が出土したことから、富田林市史編纂室によって試掘調査が行われ、弥生土器や石器を含む遺物が多数採集された（富田林市1972）。

このエリアは鉄道駅や幹線道路にも近く、近年は新たな開発も多く、それに伴う発掘調査も重ねられてきた。1978年の埋蔵文化財分布図では、中野遺跡として中野町二丁目付近の東西180m、南北110m、新堂遺跡として北東～南西700m、北西～南東400mの範囲が埋蔵文化財包蔵地として掲載されている（富田林市教育委員会（以下「市教委」という。）1978）が、現在は範囲の拡大によって両遺跡は統合されて中野遺跡として周知されている。

中野遺跡における本格的な発掘調査としては、1978年9月に大谷女子大学（現：大阪大谷大学）によって実施された学術調査があげられる。1970年に試掘調査が行われた地点に隣接する約16㎡の範囲で、多数の出土遺物の中にはサヌカイトの原石から製品にいたる加工工程がたどれる資料が出土している（大谷女子大学博物館2003）。その翌年には、宅地造成に先立つ発掘調査が市教委の依頼を受けて同大学によって実施された。この調査では削平を受けてプランは判明しなかったが、数棟の堅穴建物跡と見られるピット群や方形周溝墓の可能性のある溝状遺構のほか、土坑や井戸が検出されている（市教委1979）。

1981年に旧国道170号の歩道設置に伴い大阪府教育委員会（以下「府教委」という。）が実施した発掘調査では、6世紀前半の埴輪を含む遺物を伴う古墳の墳丘と周溝と思われる落ち込みが検出されている。おそらく古世に削平を受けて消滅した古墳であろう。

1987年から1989年にかけて都市計画道路狭山河南線の建設に伴って実施された調査では、飛鳥時代から室

町時代にわたる瓦や土器類のほか、塔の心礎と見られる石材や仏像の光背の一部と思われる木製品が出土しており、調査区近辺に古代寺院が存在していたことが示唆されている。そのほか、井戸枠に瓦を転用した中世の井戸の検出や、周辺では室町時代の和紙の出土などの多くの特筆すべき成果があがっているが、残念ながらこれらの調査成果は未報告である。

この調査地近くには「城ヶ跡」「城ヶ西」といった小字名が残ることや、「中野古城」の伝承もあり、中世集落の存在も考えられている。

旧国道170号以東の遺跡の東半部では、この後にも市教委や府教委によって発掘調査が行われており、主に弥生時代から古代・中世にかけての遺構、遺物が検出されている。

一方で遺跡西半部では、長らく田園風景が広がっていたが、1979年に大阪外環状線が富田林市まで延伸されたことを契機のひとつとして、1980年代後半以降に商業施設の進出や集合住宅の建設が相次いだ。

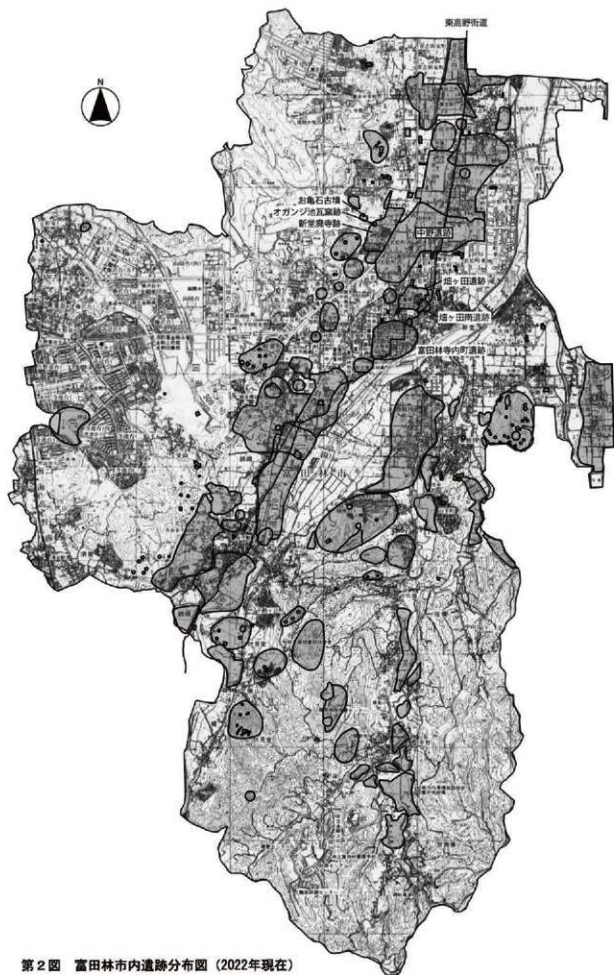
1990年に富田林市遺跡調査会（以下「調査会」という。）が実施した富田林税務署の増築工事に伴う発掘調査では、飛鳥時代から奈良時代にかけての溝状遺構、中世の船溝などが検出されている（調査会2003）。

本書掲載に掲載の調査は1991年から1994年にかけて都市計画道路若松西線の建設に先立ち市教委が実施したが、弥生時代に属する遺物の出土が若干見られたものの、やはり古代から中世の遺物が中心となっている。

このように、遺跡西半部では主に古墳時代から中世にかけての遺構と遺物の検出が中心であるが、遺跡東半部と比べると遺構の密度は高くなく、遺物の出土量も少ない傾向がある。



第1図 調査地と既往調査



第2図 富田林市内遺跡分布図（2022年現在）

2. 周辺の遺跡（第2図）

中野遺跡の南には、畑ヶ田遺跡や畑ヶ田南遺跡が位置し、西側には新堂廃寺跡が接している。

畑ヶ田遺跡では、これまでに弥生時代、飛鳥時代から奈良時代にかけての遺構や遺物が検出されている。2011年に市教委が実施した保育所建設に伴う畑ヶ田遺跡の発掘調査では、竪穴建物跡、数棟の掘立柱建物跡のほか、銭貨を埋納した土師器壺が出土している（市教委2012）。この銭貨埋納土師器の性格は不明であるが、地鎮に伴うものか胞衣壺のような機能が考えられよう。

市営若松第1住宅の建替えに先立って調査会が2003年度に発掘調査を行った畑ヶ田南遺跡では、掘立柱建物や礫を敷いた道路状の遺構が検出されている。この道路状遺構は幅約7mが確認され、現在確認されている東高野街道と接して並行するように伸びている。時期は明確ではないが、平安時代には機能していたと考えられ、東高野街道の成立時期などとの関連を考える上で興味深い。（調査会2004）

なお、畑ヶ田遺跡、畑ヶ田南遺跡ではこの後も市営住宅の建替が続き、それに伴う発掘調査を市教委において継続的に実施している。調査報告書は近年中に刊行される予定である。

新堂廃寺跡は、飛鳥時代に創建された寺院遺跡である。昭和30年代に府営住宅建設に伴う発掘調査が行われ、その後も住宅建て替えや遺跡の範囲確認などに伴う発掘調査が行われた。これら一連の調査によって、この寺院は当初四天王寺式の伽藍配置で創建され、その後の寺域拡張により伽藍の東西で回廊に取り付く建物や外郭の築地塀などが建てられたことが判明している。また、新堂廃寺跡の北西には、寺院の創建期から瓦を焼成し供給していたオガンジ池瓦窯跡があり、寺院や窯跡、遠くは石川から金剛・葛城山系を望む位置にお亀石古墳が築かれている。お亀石古墳の主体部は横口式石槨であり、この埋葬施設を囲むように平瓦が積み上げられていることが調査で確認されている。この瓦は新堂廃寺跡のものと同様の特徴をもち、この3遺跡には密接な関連性があると考えられる（市教委2003ほか）。

中野遺跡の南方には、16世紀半ばに成立した富田林寺内町が広がる。江戸時代に在郷町として発達し、当時の町並みを今に残しており、大阪府内唯一の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。また発掘調査では古代の遺構、遺物も検出されており、寺内町が成立する以前にも人々が居住していたことが窺える（調査会2005ほか）。

大阪府教育委員会1982『中野遺跡発掘調査概要-国道170号線歩道設置に伴う調査』

大谷女子大学博物館2003『中野Ⅱ-遺跡発掘調査報告書-』

富田林市1972『富田林市史 第四巻』

富田林市1985『富田林市史 第一巻』

富田林市遺跡調査会2003『中野遺跡発掘調査概要-富田林税務署増築工事に伴う緊急調査-』

富田林市遺跡調査会2004『畑ヶ田南遺跡1-市営若松第1住宅建替に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

富田林市遺跡調査会2005『富田林寺内町遺跡 生活環境施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

富田林市教育委員会1978『富田林市の埋蔵文化財-埋蔵文化財基本分布図-』

富田林市教育委員会1979『中野遺跡発掘調査報告書-富田林市若松町所在-』

富田林市教育委員会2003『新堂廃寺跡・オガンジ池瓦窯跡・お亀石古墳』

富田林市教育委員会2012『畑ヶ田遺跡-（仮称）新みどり保育園の建設に伴う発掘調査（HD2011-1）-』

山崎直方1892「河内に於ける石器の新発見地」『東京人類學雜誌』第7巻73号

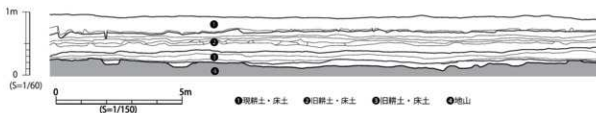
第3章 第1次調査の成果 (NNS91-3)

1. 調査概要

第1次調査は、一連の調査地では最も南側に位置する(第1図)。1990(平成2)年度に試掘調査を実施し、1991(平成3)年度に本調査を実施した。調査対象は約850㎡である。

調査は、北側に東西方向に長さ約138m、幅約5mの調査区(第1区)と、この調査区の南東側に並列する長さ約62m、幅約6mの調査区(第2区)の2調査区で実施した(第1図・第4図)。

調査前の土地利用は水田で、西から東に向かって緩く傾斜する。基本的な層序は、現在の耕土を含めて3面からなる水田耕作面で作成されている。この耕作土の下に地山があり、遺構はこの地山面で検出した(第3図)。



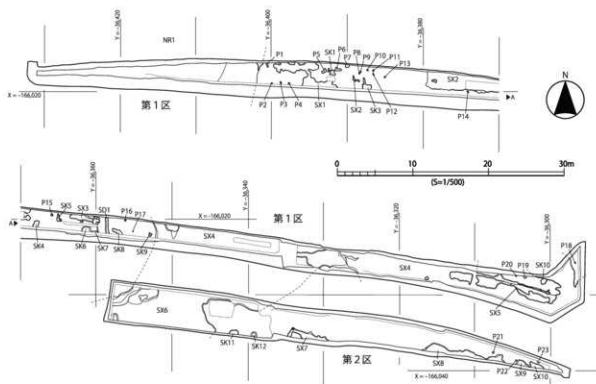
第3図 NNS91-3基本層序(第2区南壁東端)

2. 遺構

(1) 溝状遺構(第4図)

SD 1 第1区のほぼ中央部で検出した。長さ約2.2m、幅約1.4m、深さ約10cmを確認した。南北で約6cmの比高差があり南に緩やかに下っている。土師器と瓦質土器の細片が出土している。

NR 1 第1区西端で検出した。長さ4.8m、幅30mを確認したが、西肩部は調査区外のため確認できていない。埋土の堆積状況から、大きく拡がる自然流路であろう。遺物は出土していない。



第4図 NNS91-3調査区平面図(第1次調査)

(2) 土坑・不明遺構・ピット (第4図、第1表)

第1区で土坑 (SK1~10) とピット (P1~20)、不明遺構 (SX1~6)、第2区で土坑 (SK11・SK12)、ピット (P21~23)、不明遺構 (SX7~10) を検出した。

不明遺構のうち、SX4とSX6は位置、埋土、出土遺物から一連のものと考えられる。

各遺構の規模、形状、埋土等は第1表にまとめたとおりである。

第1表 NNS91-3土坑・不明遺構・ピット一覧

遺構番号	調査区	田番号	形状	最大長 (m)	最小長 (m)	深さ (cm)	埋土
SK 1	第1区	II B LN18	不整形	1.1	0.1~0.78	0.07	灰黄褐色粘質土
SK 2	第1区	II B LN21	不整形	0.11~0.99	0.12~0.88		4 灰黄褐色粘質土
SK 3	第1区	II B LN27	不整形	(1.57)	0.26~1.2		6 灰黄褐色粘質土
SK 4	第1区	II C LN31	不整形	(0.86)	0.64		2 灰黄褐色粘質土
SK 5	第1区	II C LN33	不整形	0.08~1.0	0.08~0.64		5 灰黄褐色粘質土
SK 6	第1区	II C LN35	不整形	(1.32)	(0.7)		3 灰褐色土に黄灰色混砂粘質土混
SK 7	第1区	II C LN36	不整形	(0.82)	(0.17)		3 灰黄褐色粘質土
SK 8	第1区	II D LN38	不整形	(1.28)	0.45		4 灰黄褐色粘質土
SK 9	第1区	II D LN40	不整形	0.53	0.46		6 灰黄褐色粘質土
SK10	第1区	III LN16	不整形	(0.86)	0.7		3 濁黄褐色粘質土に濁灰色弱粘質土混
SK11	第2区	I A LN12	不整形	(1.25)	(0.6)		9 濁黄褐色混砂粘質土
SK12	第2区	I A LN13	不整形	0.78	0.67		31 濁黄褐色混砂粘質土
SX 1	第1区	II B LN13	不整形	(3.1)	0.34~6.0		15 灰黄褐色粘質土 土師器と瓦質土器が出土
SX 2	第1区	II C LN29	不整形	11.02	(2.3)		3 灰黄褐色粘質土。須恵器、土師器、瓦質弱 釜、陶磁器、サスカイト片が出土
SX 3	第1区	II C LN34	不整形	(3.9)	(0.93)		17 灰黄褐色粘質土
SX 4	第1区	III LN11 ・LN12 II D LN41	不整形	(37.5)	(4.6)		濁黄褐色混砂粘質土。須恵器、土師器、 瓦器、瓦質土器、磁器、瓦、サスカイト片 が出土
SX 5	第1区	III LN17	不整形	(6.1)	(0.93)		灰黄褐色粘質土(下層は灰褐色土) 須恵器、 土師器が出土
SX 6	第1区	I A LN11	不整形	(16.7)	(4.6)		濁黄褐色粘質土に濁灰色弱粘質土混。須恵 器、土師器、須恵質土器、瓦器、平瓦、サ スカイト片などが出土
SX 7	第2区	I B LN11	不整形	(5.92)	0.45~0.93		濁黄褐色混砂粘質土
SX 8	第2区	I C LN11	不整形	11.2	(1.19)		18 濁黄褐色混砂粘質土
SX 9	第2区	I C LN12	不整形	(1.95)	(0.69)		12 濁黄褐色混砂粘質土
SX10	第2区	I C LN13	不整形	(1.84)	(0.83)		3 濁黄褐色混砂粘質土
P 1	第1区	II B LN12	不整形	(0.58)	(0.3)		12 灰黄褐色粘質土
P 2	第1区	II B LN14	不整形	(0.23)	0.16		2 灰黄褐色粘質土
P 3	第1区	II B LN15	不整形	0.32	0.17		3 灰黄褐色粘質土
P 4	第1区	II B LN16	不整形	0.24	0.18		4 灰黄褐色粘質土
P 5	第1区	II B LN17	不整形	0.66	0.47		11 灰黄褐色粘質土
P 6	第1区	II B LN19	不整形	0.9	0.27~0.56		11 灰黄褐色粘質土
P 7	第1区	II B LN20	不整形	0.56	(0.41)		3 灰黄褐色粘質土
P 8	第1区	II B LN22	不整形	0.24	0.15		2 灰黄褐色粘質土
P 9	第1区	II B LN23	不整形	0.23	0.17		1 灰黄褐色粘質土
P10	第1区	II B LN24	不整形	0.27	0.2		3 灰黄褐色粘質土
P11	第1区	II B LN25	不整形	0.28	0.18		4 灰黄褐色粘質土
P12	第1区	II B LN26	不整形	0.4	0.14		2 灰黄褐色粘質土
P13	第1区	II B LN28	不整形	0.21	0.18		1 灰黄褐色粘質土
P14	第1区	II B LN30	不整形	0.3	0.15		8 灰黄褐色粘質土
P15	第1区	II C LN32	不整形	0.34	0.3		2 灰黄褐色粘質土
P16	第1区	II D LN39	不整形	0.22	0.22		6 灰褐色土
P17	第1区	II D LN42	不整形	0.14	0.13		3 灰黄褐色粘質土
P18	第1区	III LN13	不整形	0.22	0.15		5 濁黄褐色粘質土
P19	第1区	III LN14	不整形	(0.42)	(0.35)		11 濁黄褐色粘質土に濁灰色弱粘質土混
P20	第1区	III LN15	不整形	0.2	(0.13)		1 濁黄褐色粘質土
P21	第2区	I C LN16	楕円形	0.26	0.24		15 濁黄褐色粘質土
P22	第2区	I C LN15	楕円形	0.17	0.17		4 濁黄褐色粘質土
P23	第2区	I C LN14	不整形	(0.37)	(0.22)		5 濁黄褐色粘質土

3. 出土遺物 (第5図～第8図)

出土遺物としては、弥生土器、須恵器、土師器、黒色土器、瓦器、須恵質土器、瓦質土器、磁器、陶器、陶質土器の他、瓦、サヌカイト製の石器類、珪質頁岩製の硯、砂岩片、鉄釘などがある。これらの遺物の大半は第2、第3水田面から出土したが大半が細片であり、混在して出土している。遺構から出土した遺物もほとんどが水田面からの出土と同様に混在した状況で出土している。

(1) SX4・SX6出土遺物 (第5図)

前述したようにSX4・SX6は同一の遺構と考えられ、須恵器、土師器、瓦器、須恵質土器、瓦質土器、磁器、陶器が出土した。

須恵器は6世紀後半のものでは、蓋坏や短頸壺(1)、口縁部が上下に肥厚し頸部に列点文が施された大型の甕などがある。6世紀末のものでは、坏身(5)、7世紀代のものでは蓋、8世紀後半のものでは、蓋坏、横瓶(2)、長頸壺(3)、壺(6)、平瓶、甕などがある。

土師器もほぼ須恵器と同時期と考えられる坏、高坏(7)、鉢、鍋、甕(4)、羽釜の他に、中世の土釜1点と小皿1点が出土している。

そのほか、図化できなかったが、近世の奈良火鉢、14世紀代の輸入青磁、近世の伊万里焼の碗、凸面に縄目タタキが施された平瓦などが出土している。

(2) 水田面2・3出土土器・瓦 (第6図)

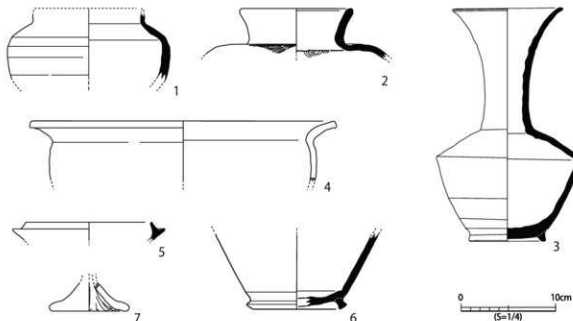
弥生土器は細片も含めて19点出土し、2点は生駒西麓産の胎土をもつ。器種が判明するものとしては広口壺、甕などがあり、弥生時代中期後半のものであろう。

須恵器は8世紀代の坏蓋(8～10)、坏身(11～12)、甕(13)、壺(15)などがある。そのほか、6世紀後半から7世紀代の坏蓋や、9世紀前半の高台の付かない瓶子(14)がある。

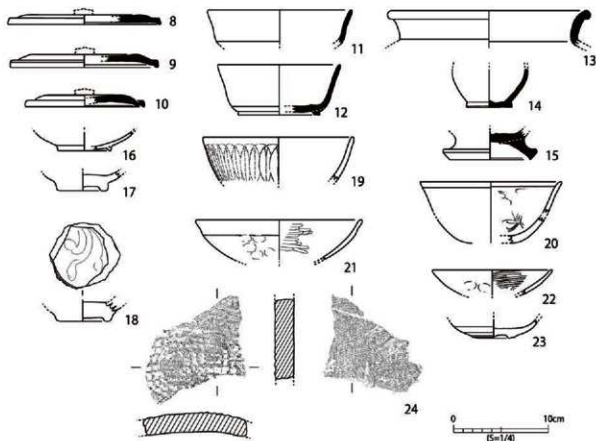
土師器は須恵器と同様に8世紀代のものが多く、坏、皿、甕、鍋などがある。その他に中世から近世にかけての小皿、坏、碗(16)、惣焙、土釜などがある。

瓦器には和泉型の碗(21・22)、小皿がある。13世紀から14世紀末のものと考えられる。

磁器では中国輸入青磁や白磁、伊万里焼がある。輸入青磁の碗で(17～20)は13世紀から15世紀前半の龍泉窯系であろう。



第5図 NNS91-3 SX4・SX6出土遺物



第6図 NNS91-3出土遺物1(土器・瓦)

陶器では17世紀前葉の唐津焼の皿(23)のほか、伊万里焼の染付碗、蓋などが出土している。

そのほか、12世紀末から13世紀代の東播系の鉢鉢、14世紀から15世紀に比定できる土釜、鉢鉢がある。

瓦は平瓦と丸瓦が出土している。平瓦には凸面に正格子タタキの施された軟質で灰色を呈するもの(24)のほか、凸面に縄目タタキの施された須恵質のものや瓦質のものがある。

また、統一新羅時代の陶質土器が試掘調査で出土している。同種のものが1994年度調査でも出土している。

(3) 石器・石製品(第7図・第8図)

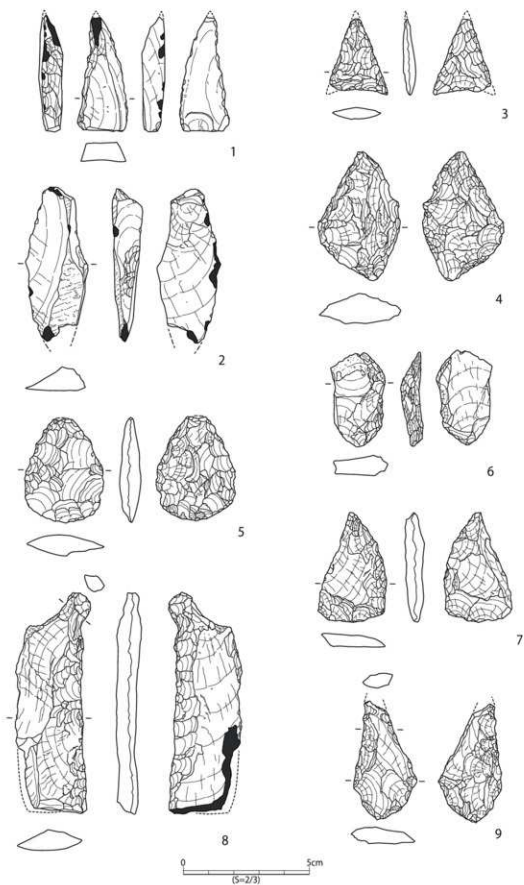
サヌカイト製の打製石器などのほか、石製の硯が出土した。

背付尖頭器(1)は断面四角形の翼状剥片を素材にして、その基部側に調整を加えて作り出している。剥片(2)は断面三角形の剥片で、A面背部に大きく自然面を残し右側縁に調整剥離が見られる。この2点は旧石器時代のもと考えられる。石鎌(3)は凹基式石鎌で、基部の凹みは浅く平基に近い。全体に風化し灰白色を呈する。

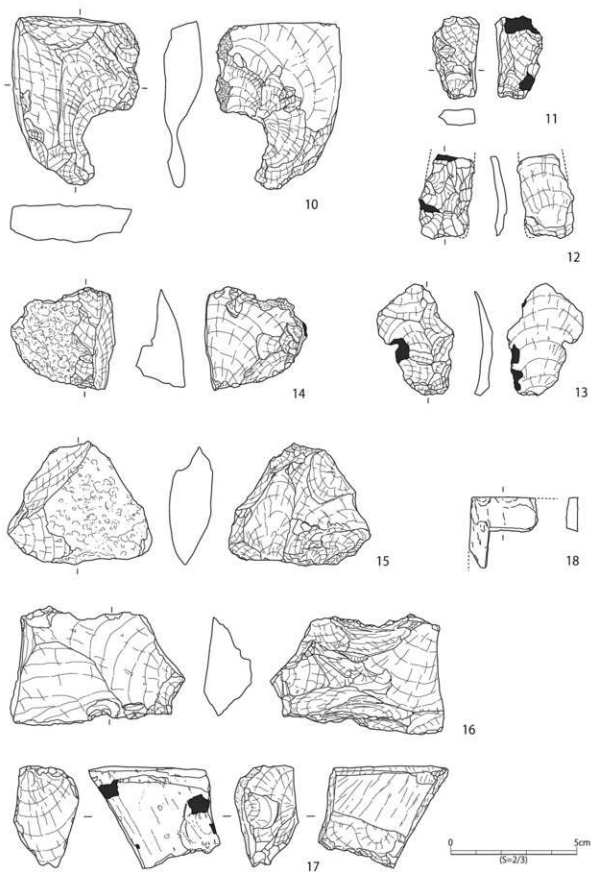
木の葉形尖頭器では、A面左側縁がやや膨らんだ木の葉状で、断面がひし形を呈する1点(4)は調整が粗く石鎌の未製品とも考えられる。(5)はやや下部が肥大した木の葉状で、断面は扁平なひし形を呈する。調整はA面よりB面が細かい。いわゆる石匙(8)は、A面右上につまみが付く長方形形状を呈する。刃部に一次剥離面を残す。

削器は3点ある。(6)は縦長剥片を利用した削器で断面は長方形形状を呈する。A面右上に短い刃部が見られる。(7)は溝状の削器で断面は平行四角形状を呈する。(9)は円基式石鎌に似ているが、全体の厚みから削器とした。影器は2点ある。(10)は石核を利用した影器で断面は全体的に肥厚し、A面右下部に円弧状に大きな剥離を施して刃部を作り出している。(11)は縦長の長方形を呈する影器で断面は長方形形状を呈する。そのほか、サヌカイト剥片や石核のうち6点を図化した。

石製品では、珪質頁岩製の硯(18)がある。縁部の一部が残り、硯側は平坦で研磨されている。



第7图 NNS91-3出土遺物2 (石器)



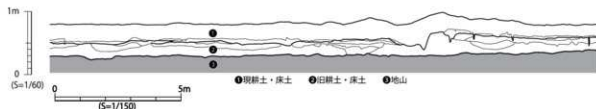
第8圖 NNS91-3出土遺物3(石器)

第4章 第2次調査の成果 (NNS92)

1. 調査概要

第2次調査の調査区は一連の調査区のうち東南部に位置し、第1次調査 (NNS91-3) の東側から北に伸びる南北に細長い調査区である (第1図)。調査対象は約840㎡で、幅約7~7.5m、長さ約115mである。1991 (平成3) 年度に試掘調査を実施し、1992 (平成4) 年度に本調査を実施した。なお、排土の関係で南北2つの調査区に分割し、南半部 (Ⅱ区) から調査に着手し、次いで北半部 (Ⅰ区) の調査を実施した。

調査区の現況は水田で、基本的には現水田面を含めて2面の水田面で構成されている。この旧水田面の下に地山があり、遺構はすべてこの地山を切り込んでいる (第9図)。



第9図 NNS92基本層序 (東壁南端)

2. 遺構 (第10図、第2表・第3表)

(1) 溝状遺構

SD1 調査区南端の南北方向に流れる溝で、長さ約5.6m、幅約0.8m、深さ約10cmを検出した。また、溝のほぼ中央で2条の溝が南東方向に派生する。埋土は黄灰褐色砂弱粘質土である。遺物は6世紀末から7世紀初頭の須恵器、土師器の他、ササカイトの剥片が2点出土している。

SD2 調査区南端で検出した。SD1に切り込まれ、層部の長さ約2.3m、幅約1.7mのみを確認した。埋土は灰褐色砂土である。遺物は出土していない。

SD3 調査区南端でSD1、SD2に併行して、長さ約10.6m、幅約0.6m、深さ10cmを検出した。南北で約7cmの比高があり北東へ流れる。埋土は黄褐色土に灰褐色砂土と灰色土が混入する。遺物は須恵器と土師器が出土している。

SD4 調査区南部でSD1~3の北側で併行する。長さ約2.9m、幅約0.5m、深さ約6cmを検出した。埋土は褐灰色土にマンガンを含む。遺物は出土していない。

SD5 調査区南部で長さ約2.5mのみ検出したが、調査区中央の試掘トレンチ付近で途切れる。幅は約0.8m、深さは約9cmを測る。埋土は褐灰黄色である。遺物は出土していない。

SD6 調査区中央の南寄りで検出した。おそらく、第2水田面に囲わる区画溝である。幅約4.4m、深さ22cmを測る。埋土は灰褐色混砂弱粘質土で、6世紀代の須恵器の他、土師器、瓦器、ササカイトの剥片2点が出土している。

SD7 調査区ほぼ中央で、長さ約5.8m、幅約1.8m、深さ14cmを検出した。埋土は褐灰色粘質土で、須恵器、土師器、土師質土器、磁器、瓦とササカイトの剥片が2点出土している。

SD8 調査区中央やや北寄りで東西方向に弓状に湾曲する遺構で、長さ約5.4mを検出した。幅約1.3m、深さ約9cmを測る。埋土は褐色混灰色粘質土である。遺物は出土していない。

SD9 調査区中央から北寄りに、東西方向に蛇行して流れるやや不定形の遺構で、長さ約9.4mを検出した。幅約2.2m、深さ約18cmを測る。埋土は褐色混灰色粘質土である。位置や埋土からSD8と同一遺構の可能性はある。遺物は出土していない。

SD 10 調査区北部で長さ約6.3mを検出した。幅約0.6m、深さ約6cmを測る。埋土は灰色粘質土で、土師器と近世の白磁が出土している。

SD 11 調査区北部をSD10に併行して長さ約6.3mを検出した。幅約0.5m、深さ約4cmを測る。埋土は灰色粘質土で、土師器と近世の伊万里焼が出土している。

SD 12・SD 14 SD12は、調査区北部で検出した遺構で、長さ約7.4m、幅約18m、深さ約36cmを確認した。

遺構は3層の堆積からなるが、さらに下層から縄文晩期の溝状遺構 (SD14) を検出した。遺物は8世紀後半の土師器と須恵器、製塩土器、瓦などのほか、SD14からの混入と考えられる縄文晩期の土器、ササカイト製の打製石器、6世紀末から7世紀初頭の須恵器がわずかに認められる。おそらく8世紀後半に機能し、廃絶したと考えられる。

SD14からは縄文時代晩期の長原式の深鉢とササカイト製の打製石器が出土している。

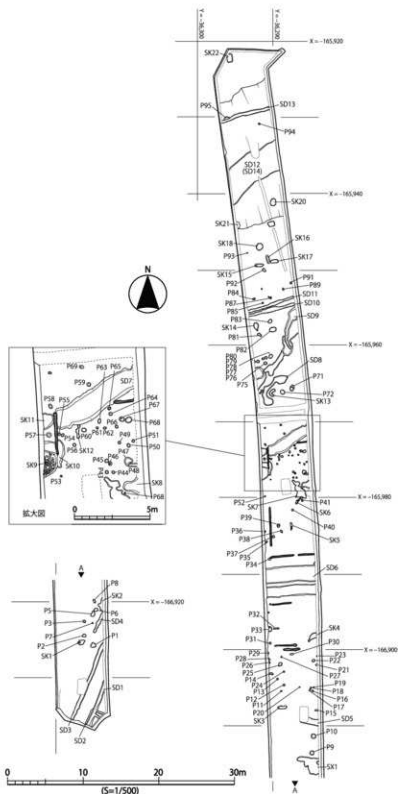
SD 13 SD12の北側肩部を切り込んで、長さ約7.1mを検出した。幅約0.5m、深さ約10cmを測る。埋土は灰白色砂土である。遺物は出土していない。

鋤溝 そのほか調査区に直交する方向に5条と平行する方向に2条の鋤溝を検出した。これらはすべて第2水田面に関わるものである。幅は約20~30cm、深さは約4~7cmで、埋土はすべて灰黄色粘質土である。遺物は鋤溝1から土師器の細片が出土したのみである。

(2) 土坑・ピット・不明遺構

土坑 (SK 1~22)、ピット (P 1~95)、不明遺構 (SX 1) を検出した。

各遺構の規模、形状、埋土などは第2表と第3表にまとめた。



第10図 NNS92調査区平面図 (第2次調査)

第2表 NNS92土坑・不明遺構・ピット一覧(1)

遺構番号	調査区	旧番号	形状	最大長 (m)	最小長 (m)	深さ (cm)	埋土
SK 1	Ⅱ区	LN15	不整形	1.07	0.65	8	褐灰色土 (マンガン含む)
SK 2	Ⅱ区	LN20	不整形	(1.75)	(0.59)	8	灰黄褐色土
SK 3	Ⅱ区	LN27	不整形	1.22	0.41	5	褐灰黄色土
SK 4	Ⅱ区	LN51	不整形	(1.57)	(0.2～0.7)	8	灰黄褐色土 (礫含む)
SK 5	Ⅱ区	LN63	不整形	1.04	0.27	15	灰黄褐色粘質土
SK 6	Ⅱ区	LN65	不整形	1.3	0.15～0.28	5	灰黄褐色粘質土
SK 7	Ⅱ区	LN67	不整形	3.0	0.3～1.55	4	地山混灰黄褐色粘質土
SK 8	Ⅱ区	LN69	不整形	(1.2)	(1.04)	17	灰黄褐色粘質土
SK 9	Ⅱ区	LN80	不整形	(1.82)	(0.9)	15	灰黄色粘質土。底部に礫が敷かれる
SK10	Ⅱ区	LN82	不整形	(1.85)	(1.35)	17	灰褐色粘質土
SK11	Ⅱ区	LN85	不整形	(1.0)	(0.72)	7	灰黄褐色粘質土
SK12	Ⅱ区	LN89	不整形	0.92	0.21	4	地山混灰黄褐色粘質土
SK13	Ⅰ区	LN37	不整形	1.27	0.4	6	褐色混灰色粘質土
SK14	Ⅰ区	LN46	不整形	1.11	0.61	1	褐色混灰色粘質土
SK15	Ⅰ区	LN15	不整形	1.18	0.42	11	赤褐色粘質土
SK16	Ⅰ区	LN17	不整形	1.14	0.44	28	赤褐色粘質土混灰色粘質土
SK17	Ⅰ区	LN18	不整形	1.05	0.47	6	灰色粘質土
SK18	Ⅰ区	LN12	不整形	0.96	0.9	9	灰色粘質土
SK19	Ⅰ区	LN43	不整形	0.96	0.7	10	黒色土
SK20	Ⅰ区	LN11-5	不整形	1.0	0.75	5	黒色土
SK21	Ⅰ区	LN11-4	不整形	(0.78)	(0.39)	8	黒色土
SK22	Ⅰ区	LN42	隅丸方形	1.1	0.76	16	灰色粘質土
SX 1	Ⅱ区	LN48	不整形	(2.97)	0.62～2.22	6	灰褐色土
P1	Ⅱ区	LN14	不整形	0.73	0.66	4	灰褐色土
P2	Ⅱ区	LN16	不整形	0.5	0.43	17	褐灰色土 (マンガン含む)
P3	Ⅱ区	LN104	楕円形	0.4	0.36	18	褐灰色粘質土
P5	Ⅱ区	LN18	不整形	0.72	0.58	3	褐灰色土 (マンガン含む)
P6	Ⅱ区	LN19	不整形	0.56	0.45	2	褐灰色土 (マンガン含む)
P7	Ⅱ区	LN21	不整形	0.21	0.17	6	褐灰色土 (マンガン含む)
P8	Ⅱ区	LN22	不整形	0.5	0.28	4	褐灰色土 (マンガン含む)
P9	Ⅱ区	LN24	不整形	0.58	0.57	10	褐灰黄色土
P10	Ⅱ区	LN25	隅丸方形	0.64	0.62	17	暗褐灰黄色土 (マンガン含む)
P11	Ⅱ区	LN28	楕円形	0.22	0.2	4	灰黄褐色土
P12	Ⅱ区	LN29	隅丸方形	0.28	0.28	8	灰黄褐色土
P13	Ⅱ区	LN30	不整形	0.26	0.25	8	灰黄褐色土
P14	Ⅱ区	LN31	不整形	(0.6)	0.28	15	灰褐色土
P15	Ⅱ区	LN32	不整形	(0.43)	0.24	5	灰黄褐色土
P16	Ⅱ区	LN33	隅丸方形	0.27	0.22	8	褐灰色土 (マンガン含む)
P17	Ⅱ区	LN34	不整形	0.29	0.24	5	褐灰色土 (マンガン含む)
P18	Ⅱ区	LN35	不整形	0.23	0.2	5	褐灰色土 (マンガン含む)
P19	Ⅱ区	LN36	不整形	0.16	0.14	2	褐灰色土 (マンガン含む)
P20	Ⅱ区	LN37	不整形	0.17	0.14	5	褐灰色土 (マンガン含む)
P21	Ⅱ区	LN38	不整形	(0.3)	(0.3)	8	灰黄褐色土 (マンガン含む)
P22	Ⅱ区	LN39	不整形	0.43	0.34	9	灰黄色土 (マンガン含む)
P23	Ⅱ区	LN40	不整形	(0.16)	(0.12)	6	灰褐色土
P24	Ⅱ区	LN41	隅丸方形	0.22	0.21	8	灰黄褐色土 (マンガン含む)
P25	Ⅱ区	LN42	不整形	0.54	0.45	11	灰黄褐色土
P26	Ⅱ区	LN43	不整形	(0.35)	(0.17)	5	灰褐色土
P27	Ⅱ区	LN44	不整形	0.25	0.21	11	灰黄褐色土
P28	Ⅱ区	LN45	不整形	(0.35)	0.22	5	灰褐色土
P29	Ⅱ区	LN46	不整形	(0.38)	(0.17)	5	灰黄褐色土
P30	Ⅱ区	LN47	不整形	0.47	0.24	6	灰黄褐色土
P31	Ⅱ区	LN50	不整形	0.3	0.29	14	灰黄色土
P32	Ⅱ区	LN52	不整形	0.77	0.2	5	灰黄色土
P33	Ⅱ区	LN53	不整形	0.7	(0.43)	13	灰黄色土
P34	Ⅱ区	LN55	不整形	0.35	0.28	5	黄褐色混灰色粘質土
P35	Ⅱ区	LN57	楕円形	0.18	0.33	7	黄褐色混灰色粘質土
P36	Ⅱ区	LN58	不整形	0.29	(0.2)	7	黄褐色混灰色粘質土
P37	Ⅱ区	LN60	不整形	0.35	0.31	5	灰黄褐色粘質土
P38	Ⅱ区	LN61	楕円形	0.45	0.23	11	灰黄褐色粘質土
P39	Ⅱ区	LN62	不整形	0.49	0.41	31	灰黄褐色粘質土
P40	Ⅱ区	LN64	不整形	0.3	0.25	1	灰黄褐色粘質土

第3表 NNS92土坑・不明遺構・ピット一覧(2)

遺構番号	調査区	旧番号	形状	最大長 (m)	最小長 (m)	深さ (cm)	埋土
P41	Ⅱ区	LN66	不整形	0.83	0.25	15	灰黄褐色粘質土
P42	Ⅱ区	LN68	不整形	0.15	0.1	4	灰黄褐色粘質土
P43	Ⅱ区	LN70	隅丸方形	0.24	0.23	5	灰黄褐色粘質土
P44	Ⅱ区	LN71	不整形	0.24	0.19	4	灰黄褐色粘質土
P45	Ⅱ区	LN72	不整形	0.27	0.26	4	灰黄褐色粘質土
P46	Ⅱ区	LN73	隅丸方形	0.28	0.24	2	灰褐色粘質土
P47	Ⅱ区	LN74	不整形	0.59	0.56	2	灰黄褐色粘質土
P48	Ⅱ区	LN75	不整形	(0.67)	0.26	9	灰黄褐色粘質土
P49	Ⅱ区	LN76	不整形	0.2	0.18	5	灰黄褐色粘質土
P50	Ⅱ区	LN77	不整形	0.28	0.21	4	灰黄褐色粘質土
P51	Ⅱ区	LN78	不整形	0.22	0.18	11	灰黄褐色粘質土
P52	Ⅱ区	LN79	不整形	0.2	0.17	99	灰黄褐色粘質土
P53	Ⅱ区	LN81	不整形	0.17	0.14	5	灰褐色粘質土
P54	Ⅱ区	LN86	不整形	0.24	0.17	5	灰黄褐色粘質土
P55	Ⅱ区	LN87	不整形	0.2	0.18	5	灰黄褐色粘質土
P56	Ⅱ区	LN88	不整形	0.22	0.22	4	灰黄褐色粘質土
P57	Ⅱ区	LN90-2	不整形	0.34	0.3	9	灰黄褐色粘質土
P58	Ⅱ区	LN91	不整形	0.34	0.23	5	灰黄褐色粘質土
P59	Ⅱ区	LN92	不整形	0.26	0.26	9	灰黄褐色粘質土
P60	Ⅱ区	LN93	不整形	0.35	0.28	4	地山混灰黄褐色粘質土
P61	Ⅱ区	LN94	不整形	0.18	0.15	7	灰黄褐色粘質土
P62	Ⅱ区	LN95	不整形	0.21	0.17	5	灰黄褐色粘質土
P63	Ⅱ区	LN96	不整形	0.36	0.2	5	灰黄褐色粘質土
P64	Ⅱ区	LN97	不整形	0.22	0.22	8	灰黄褐色粘質土
P65	Ⅱ区	LN98	不整形	0.24	0.22	11	灰黄褐色粘質土
P66	Ⅱ区	LN99	不整形	0.2	0.19	5	灰黄褐色粘質土
P67	Ⅱ区	LN100	不整形	0.36	0.35	3	灰黄褐色粘質土
P68	Ⅱ区	LN101	不整形	0.45	0.36	5	灰褐色粘質土
P69	Ⅱ区	LN103	不整形	0.32	0.21	11	灰褐色粘質土
P70	Ⅱ区	LN105	楕円形	0.24	0.16	1	灰黄褐色粘質土
P71	Ⅱ区	LN106	不整形	0.2	0.19	14	灰褐色土
P71	I区	LN41	不整形	0.84	0.57	11	灰黄褐色粘質土
P72	Ⅱ区	LN201	不整形	0.23	0.2	17	
P72	I区	LN40	不整形	0.62	0.61	7	灰黄褐色粘質土
P73	I区	LN39	不整形	0.22	0.2	4	褐色混灰色粘質土
P74	I区	LN38	不整形	0.33	0.3	7	褐色混灰色粘質土
P75	I区	LN34	不整形	0.47	0.4	7	褐色混灰色粘質土
P76	I区	LN33	不整形	(0.4)	(0.16)	7	褐色混灰色粘質土
P77	I区	LN32	不整形	0.42	0.4	7	褐色混灰色粘質土
P78	I区	LN31	不整形	0.33	0.29	7	褐色混灰色粘質土
P79	I区	LN30	不整形	0.35	0.35	6	褐色混灰色粘質土
P80	I区	LN29	不整形	0.59	0.45	6	褐色混灰色粘質土
P81	I区	LN47	不整形	0.63	0.34	9	褐色混灰色粘質土
P83	I区	LN44	不整形	0.59	0.5	9	褐色混灰色粘質土
P84	I区	LN25	不整形	0.41	0.25	11	灰色粘質土
P85	I区	LN24	不整形	0.24	0.22	6	灰色粘質土
P86	I区	LN23	不整形	0.24	0.12	6	灰色粘質土
P87	I区	LN22	不整形	0.4	0.17	6	灰色粘質土
P88	I区	LN21	不整形	0.21	0.16	12	灰色粘質土
P89	I区	LN20	不整形	0.3	0.24	7	灰色粘質土
P90	I区	LN26-1	不整形	0.23	0.2	9	灰色粘質土
P91	I区	LN19	隅丸方形	0.26	0.23	6	灰色粘質土
P92	I区	LN16	不整形	0.55	0.32	9	赤褐色粘質土
P93	I区	LN13-1	不整形	0.15	0.14	7	
P94	I区	LN11-3	不整形	0.28	0.2	1	灰色粘質土
P95	I区	LN11-2	不整形	(0.72)	(0.32)	8	

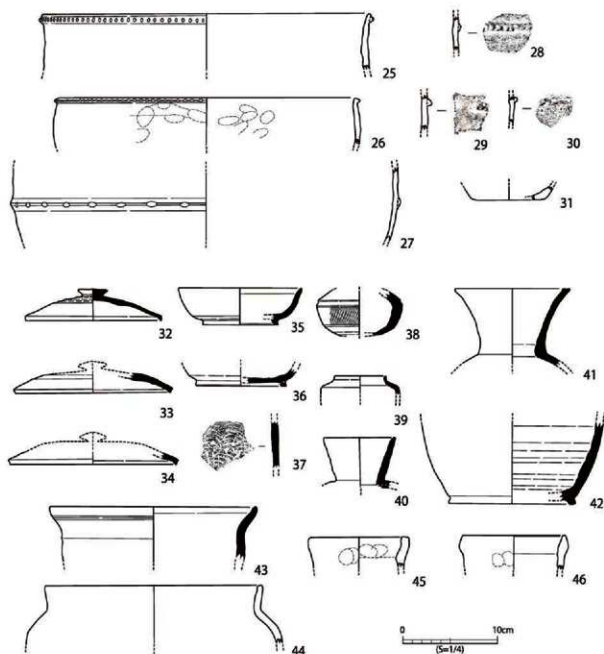
3. 出土遺物 (第11図～第18図)

縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、黒色土器、瓦器、須恵質土器、瓦質土器、磁器、陶器、製塩土器、陶質土器の他、埴、瓦、土製品、サヌカイト製の石器類、珪質頁岩製の砥石、硯などがある。

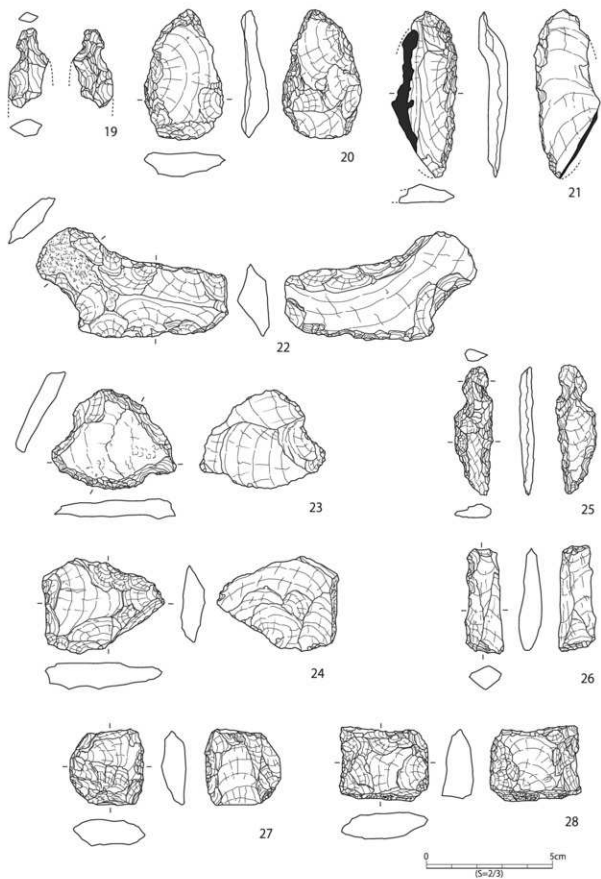
(1) SD12・SD14出土遺物 (第11図～第14図)

前述したようにSD14はSD12の下層にあたる。SD14からは縄文土器とサヌカイト製の石器のみが出土し、上層のSD12からは縄文土器、サヌカイト製の打製石器と奈良時代以降の遺物が混在して出土している。

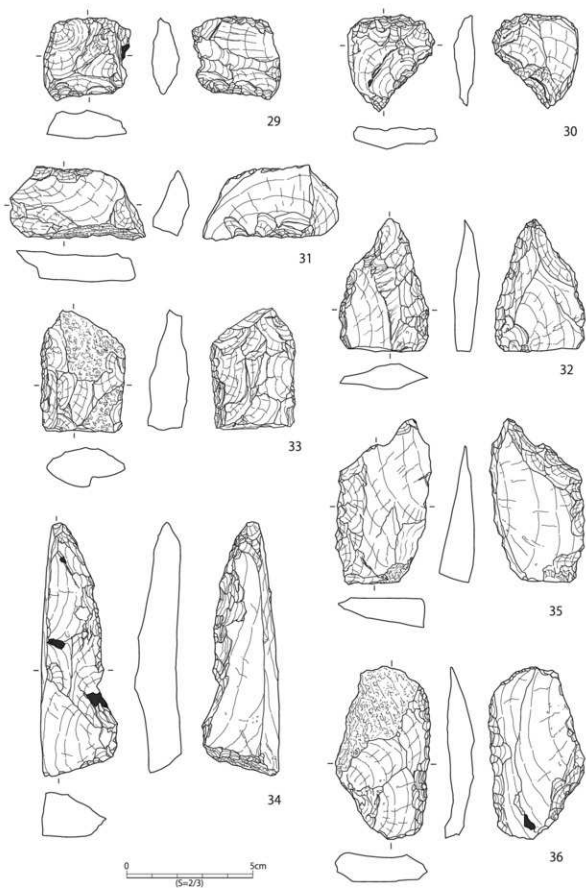
縄文土器は、粗製の深鉢と考えられる。(25・26)はいずれも口縁部に凸帯が付されているが、(25)は口縁部上端からやや下がった位置に貼り付け、頸部は外反する。凸帯は断面三角形形状を呈し、凸帯上の刻み目は小さく浅い。それに対して(26)は口縁部上端に凸帯を貼り付け、頸部は膨らみをもって肩部に至る。凸帯は断面三角形形状を呈し、凸帯上の刻み目は小さく浅い。いずれも生駒西麓産の胎土をもつ。体部(27～30)のうち、(27)は凸帯や刻み目の形状が(26)に似ている。(28～30)と底部(31)は小片のため全体像はわからない。(29)は、凸帯上の刻み目が古い様相を残しているため船橋式にまで遡る可能性があり、その他は長原式と考えられる。



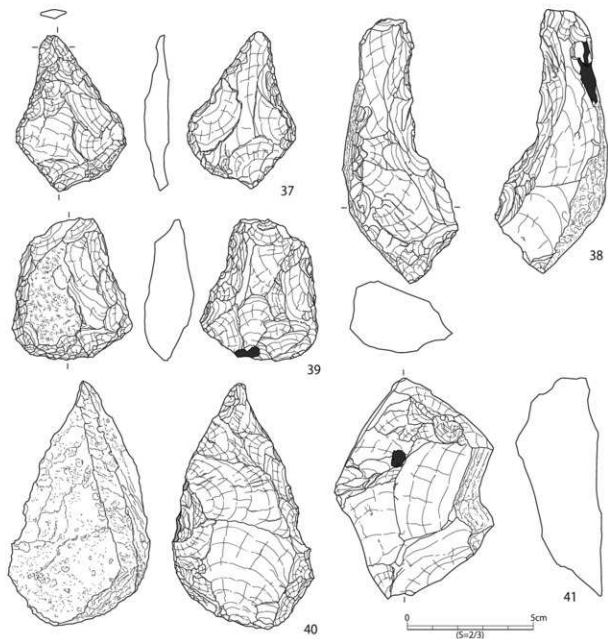
第11図 NNS92 SD12・SD14出土遺物1 (土器)



第12圖 NNS92 SD12・SD14出土遺物2（石器）



第13図 NNS92 SD12・SD14出土遺物3(石器)



第14図 NNS92 SD12・SD14出土遺物4（石器）

縄文土器以外の遺物としては、須恵器、土師器、黒色土器、瓦質土器、製塩土器、瓦などがある。

須恵器は7世紀から8世紀代のものである。坏蓋（32～34）は、天井部に扁平な宝珠形のつまみをもつ。

坏身はすべて直立する口縁部をもち、底部は高台がつくもの（35・36）とつかないものがある。甕（38）は扁平な体部の中央に列点文が施されている。短頸壺（39）は小型品で肩部が張る。平瓶（40）は外傾する頸部に端部が丸くおさまる口縁部をもつ。広口壺（41）は外傾して大きく開く頸部に上端で凹面をもつ口縁部をもつ。（42）は高台のつく壺の体部片である。鉢（43）は体部から屈曲してなだらかに開く口縁部をもち、口縁端部はわずかにつまみ上げて、丸くおさまる。その他、甕の体部（37）がある。

土師器も7世紀代から8世紀代のものであるが大半が細片で、磨滅が著しく残存状況が悪い。

壺（44）は口縁部が短く、ほぼ直立するタイプである。製塩土器（45・46）は奈良時代の紀淡海峡産のものである。

石器は、すべてサヌカイト製の打製石器で、石匙、木の葉形尖頭器、楔形石器（ピエス・エスキエ）、削器、剥片、石核などが出土している。基本的に石器の所属時期は共伴土器によって判断するべきだが、今回の調査

ではSD12・14から弥生土器が出土しなかったことから、ここでは石器を縄文時代晩期のものとして取り扱う。

石匙は3点出土した。(19)は縦型の石匙と思われるが大きく破損している。(25)は縦長剥片を利用し、上部につまみが付く。(22)は形状から石匙としたが、調整が粗く大型であることから、凹刃の削器の可能性もある。木の葉形尖頭器(20)は、下部がやや肥大した木の葉状で、断面は扁平な菱形を呈する。

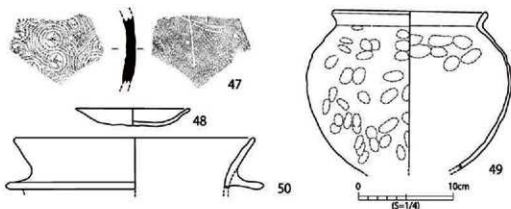
楔形石器(ピエス・エスキエ)(26~29)は4点出土した。いずれも両面に丁寧な細部調整を施している。また、細部調整が施されている剥片類を削器(21・23・24・30~40)としたが、その一部は何らかの未製品かも知れない。そのほかに石核(41)がある。

(2) SD7・P3・P13出土遺物(第15図)

SD7から須恵器、土師器、土師質土器、磁器、瓦、サヌカイトの剥片と石核が出土している。そのうち、須恵器は甕の体部片(47)で、内面に車輪文が認められる。

P3から土師器の皿と甕が出土している。皿(48)は平底に大きく開く口縁部をもつ。甕(49)は短く外傾する口縁部に丸い体部をもち、体部内面の肩部と外面の全体に指頭圧痕が残る。これらは平安時代のものであろう。

P13から土師器の羽釜(50)が出土している。大きく開く口縁部に水平にのびる銜部をもち、生駒西麓産の胎土をもつ。



第15図 NNS92 SD7・P3・P13出土遺物

(3) 第2水田面出土遺物(第16図~第18図)

弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、土師質土器、須恵質土器、瓦質土器、製塩土器、陶器、磁器、陶質土器、磚、瓦、土人形、円盤、石器、馬歯、骨などが出土している。

須恵器は6世紀後半の蓋坏、7世紀初頭の宝珠つまみがつく坏蓋(51)、外面に細筋の平行タキが施された甕(61・62)、内面に車輪文が施された甕の破片(63)がある。8世紀から9世紀のものでは、扁平な宝珠つまみがついた坏蓋(52)、高台の付く坏身(55)のほか、皿(56)、厚い円板の底部に外上方にまっすぐのびる体部をもつ鉢(59)、高台のついた小型の瓶子(57~59)などがある。また、甕(53)は、底部は回転ペラ削り調整が施されている。このほかに碗(54)、列点文の施された平瓶の肩部(62)、花瓶(60)などが出土している。

土師器は7世紀代の高坏脚柱部(67)、羽釜のほか、8世紀後半に比定できる坏(64)、甕に付された舌状の把手(65・66)が認められる。

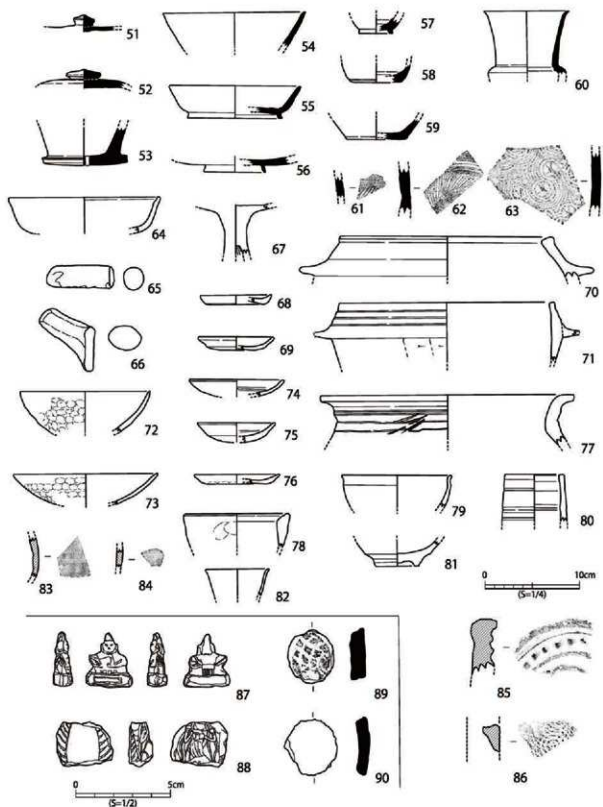
土師質土器には小皿(68・69)と土釜(70)がある。

瓦器は、14世紀代の碗と皿がある。碗には、やや深いもの(72)と浅いもの(73)があり、皿(74~76)は小型のもので銀黒色を呈する。

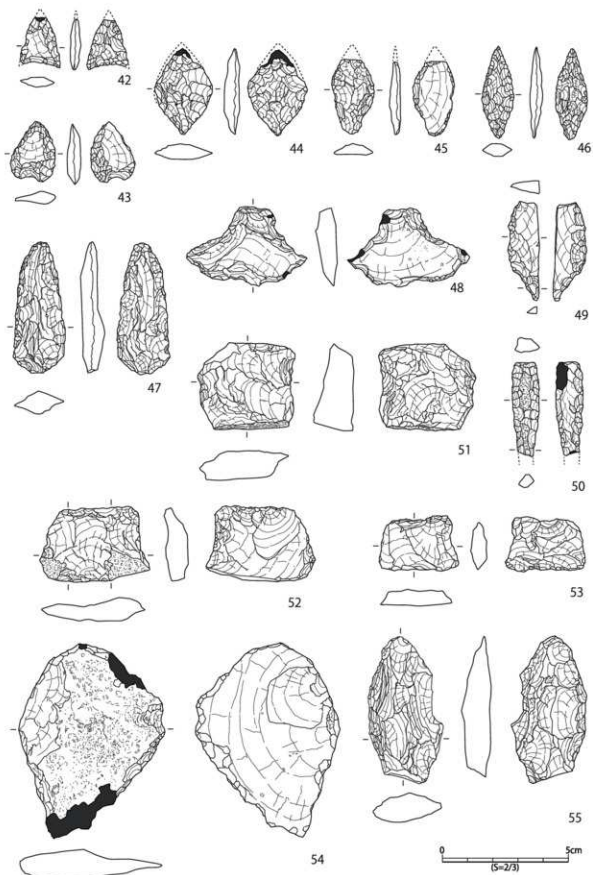
瓦質土器には、14世紀末から15世紀頃の土釜(71)、14世紀代の甕(77)がある。

製塩土器 (78) は紀淡海峽産のものである。

陶器には18世紀後半から19世紀の在系陶器碗 (79)、備前焼の花生の壺 (80)、唐津焼の碗 (81) がある。
磁器は18世紀～19世紀の伊万里焼の染付碗、白磁の坏 (82) が出土している。



第16図 NNS92 第2水田面出土遺物1 (土器・土製品)



第17圖 NNS92第2水田面出土遺物2(石器)

陶質土器は壺の体部片 (83・84) が出土している。

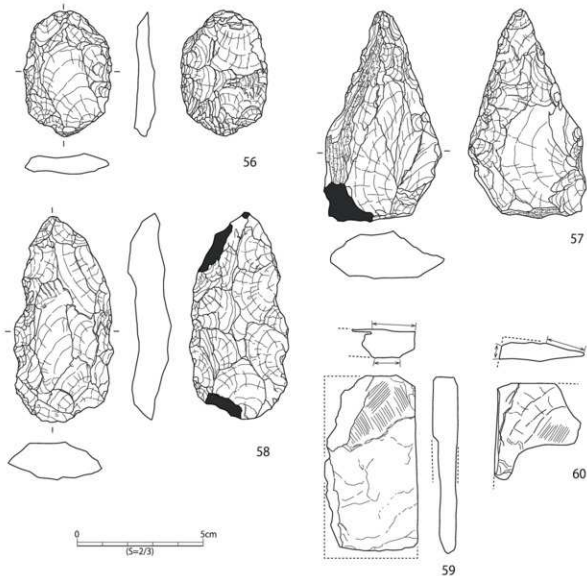
瓦は、内区に左巴文、外区に珠文が施された軒丸瓦 (85) の他に平瓦と丸瓦が出土している。

磚 (86) は須恵質で同心円文が施されている。

土製品としては、土製人形と円盤状土製品が出土している。土製人形は、フォルムから天神 (87)、不動明王 (88) とみられる。いずれも型合わせ作りで、前者は側面に合わせ型の痕跡が残り、後者は型合わせ用の孔が認められる。円盤状土製品 (89・90) は須恵質で、直径3mm前後を測る。側縁を打ち欠いた後、一部研磨している。

石器には、サヌカイト製の石鏃、石錐、石匙、楔形石器 (ビエス・エスキエ)、削器などがある。石鏃は凹基式 (42・43)、凸基無茎式 (44~47) がある。石匙 (48) は横長剥片を利用し、調整は全体的に粗雑なため未製品の可能性がある。石錐は2点 (49・50)、楔形石器は3点 (51~53) ある。削器は細部調整が施されている剥片類を取りあげた。全体に細部調整を施すもの (55・56・58) と大きく礫面を残すもの (54・57) がある。

石製硯は2点ある。(59) は平面、断面ともに長方形形状を呈し、摺面は斜向する2方向の研磨である。(60) は大半を欠くため全体の形状は不明で、摺面には斜め一方方向の研磨がみられる。



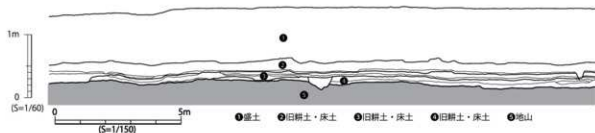
第18図 NNS92第2水田面出土遺物3 (石器・石製品)

第5章 第3次調査の成果 (NNS93-1)

1. 調査概要

第3次調査の調査区は、第2次調査 (NNS92) の北側に設定した (第1図)。調査対象は約845㎡で、幅約6～8m、長さ約133mと南北に細長い調査区である。1992 (平成4) 年度に試掘調査を実施し、1993 (平成5) 年7月20日から9月27日まで本調査を実施した。調査は、用地の制約から調査区を分けて行っている。

I区からIII区の現況は宅地で、第IV区は水田である。基本的には、現水田面を含めて水田面が3面認められる。また、I区からIII区では、この水田面の上に厚さ0.7mの盛土で宅地が造成されている。これらの堆積層の下に地山があり、遺構はこの地山を掘り込んで検出している (第19図)。



第19図 NNS93-1基本層序 (東壁中央)

2. 遺構 (第20図・第4表～第6表)

(1) 溝状遺構

SD1 I区南側で検出した。長さ約6.4m、幅約0.6mで東西方向に伸び、深さ約9cmを測る。遺物は出土していない。

SD2 II区南側で検出した。長さ約6.2m、幅約0.7mで東西方向に伸び、深さ約7cmを測る。須恵器と瓦器が出土している。

SD3 II区南側で検出した。長さ約6m、幅約1.9mで東西方向に伸び、深さ約6cmを測る。須恵器と土師器が出土している。

SD4 II区北半部で検出した。長さ約11m、幅約0.7mで南北方向に伸び、深さ約9cmを測る。遺物は出土していない。

SD5 III区東側からIV区南部にかけて検出した。長さ約9m、幅約5mで南北方向に伸び、深さ約24cmを測る。7世紀前半の土師器が出土している。

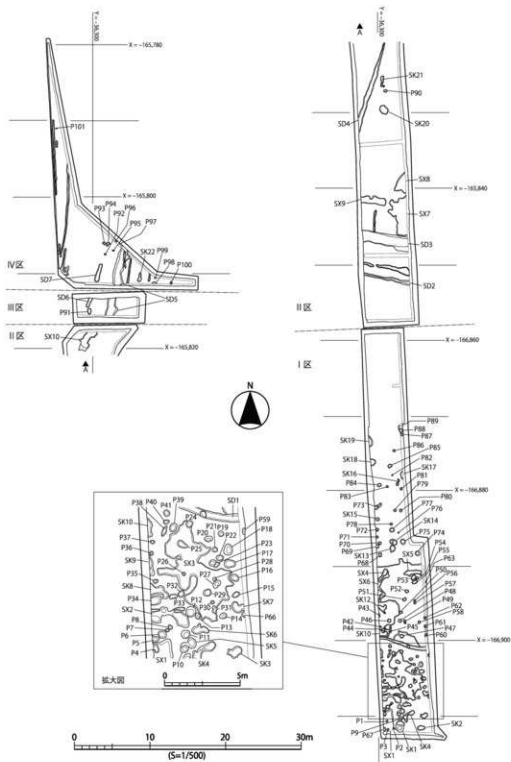
SD6 III区西側で検出した。長さ約0.6m、幅約1.3mで南北方向に伸び、深さ約6cmを測る。遺物は出土していない。

SD7 IV区南部で検出した。長さ約0.6m、幅約2.5mで南北方向に伸び、深さ約5cmを測る。SD6と同一遺構であろう。遺物は出土していない。

鋤溝 そのほか鋤溝をII区とIV区で検出した。II区の鋤溝は東西方向に2条、南北方向1条で、IV区の鋤溝8条はすべて東西方向である。

(2) 土坑・不明遺構・ピット

土坑 (SK1～22)、ピット (P1～101)、不明遺構 (SX1～10) を検出した。それぞれの規模、形状、埋土などは第4表から第6表にまとめている。



第20図 NNS93-1調査区平面図（第3次調査）

第4表 NNS93-1土坑・不明遺構・ピット一覧(1)

遺構番号	調査区	旧番号	形状	最大長 (m)	最小長 (m)	深さ (cm)	埋土
SK1	I区	LN22	不整形	(1.49)	1.14	32	暗茶褐色土
SK2	I区	LN33	不整形	1.04	0.62	11	茶黄色土に青色土が混じる
SK3	I区	LN34	不整形	1.02	0.67	14	茶黄色土に青色土が混じる
SK4	I区	LN71	不整形	1.76	1.03	20	暗褐色土
SK5	I区	LN24	不整形	1.04	0.14 ~ 0.72	34	暗褐色土 須恵器、土師器が出土
SK6	I区	LN26	不整形	1.16	0.61	18	暗褐色土
SK7	I区	LN36	不整形	(0.81)	0.72	8	暗褐色土
SK8	I区	LN84	不整形	(1.31)	0.65	15	暗褐色土
SK9	I区	LN87	不整形	(1.43)	(0.34)	10	暗褐色土
SK10	I区	LN89	不整形	(1.15)	(0.29)	13	暗褐色土
SK11	I区	LN100	不整形	(1.1)	(0.82)	10	暗褐色土
SK12	I区	LN99	不整形	(1.39)	0.97	6	暗褐色土
SK13	I区	LN44	不整形	0.98	0.74	20	青色粘質土に茶黄色土が混じる
SK14	I区	LN41	不整形	1.03	0.74	27	青色粘質土に茶黄色土が混じる
SK15	I区	LN48	不整形	(1.12)	0.48	14	青色粘質土に茶黄色土が混じる
SK16	I区	LN60	不整形	0.9	0.35	11	青色粘質土に茶黄色土が混じる
SK17	I区	LN64	不整形	1.05	0.33	10	青色粘質土に茶黄色土が混じる
SK18	I区	LN49	不整形	(0.94)	(0.7)	15	青色粘質土に茶黄色土が混じる
SK19	I区	LN51	不整形	(1.53)	(0.45)	14	青色粘質土に茶黄色土が混じる
SK20	II区	LN15	不整形	1.14	1.11	4	灰茶色土
SK21	II区	LN13	不整形	1.41	0.32	5	灰茶色土
SK22	IV区	LN15	不整形	1.15	0.4	5	灰茶色弱粘質土 (マンガン含む)
SX 1	I区	LN76	不整形	(2.98)	(1.54)	26	暗褐色土 遺構内からピット4基を検出 須恵器、土師器、瓦器、瓦が出土
SX 2	I区	LN19	不整形	2.52	0.14 ~ 0.87	40	暗褐色土 須恵器、土師器が出土
SX 3	I区	LN23	不整形	6.24	4.96	8	暗褐色土 遺構内からピット8基を検出 須恵器、土師器、平瓦が出土
SX 4	I区	LN11	不整形	(11.0)	(6.5)	10	暗褐色土 遺構内でSX 5・SX 6とピット15基を検出 須恵器、土師器、瓦が出土
SX 5	I区	LN11-3	不整形	2.36	0.79	11	暗灰色粘質土に黄褐色土混 SX 4の北東部底で検出
SX 6	I区	LN11-17	溝状	(2.15)	(0.6)	13	暗灰色粘質土に黄褐色土混 SX 4の北西部底で検出
SX 7	II区	LN17	不整形	(5.25)	(2.46)	11	黄灰色土 須恵器、土師器、瓦が出土
SX 8	II区	LN16	不整形	(2.87)	(1.55)	10	黄灰色土
SX 9	II区	LN18	不整形	(3.34)	0.61 ~ 1.01	4	黄灰色土
SX10	II区	LN11	不整形	(3.0)	1.54	4	黄灰色土
P1	I区	LN76-1	不整形	0.32	0.27	14	暗茶褐色土
P2	I区	LN76-2	不整形	0.25	0.2	16	暗茶褐色土
P3	I区	LN76-3	不整形	0.33	0.29	13	暗茶褐色土
P4	I区	LN76-4	不整形	0.52	(0.37)	12	暗茶褐色土
P5	I区	LN78	不整形	(0.45)	(0.45)	20	暗茶褐色土
P6	I区	LN16	隅丸方形	0.52	0.48	23	暗茶褐色土
P7	I区	LN79	隅丸方形	0.25	0.21	8	暗茶褐色土
P8	I区	LN80	不整形	0.29	0.28	9	暗茶褐色土
P9	I区	LN20	不整形	0.49	0.44	20	暗茶褐色土
P10	I区	LN75	不整形	0.56	0.43	20	暗茶褐色土
P11	I区	LN27	不整形	0.6	0.54	30	暗茶褐色土
P12	I区	LN18	不整形	0.66	0.65	41	暗茶褐色土 土師器が出土
P13	I区	LN73	不整形	0.4	0.33	19	暗褐色土
P14	I区	LN70	不整形	0.47	0.27	24	暗褐色土
P15	I区	LN37	不整形	0.48	0.32	7	暗褐色土

第5表 NNS93-1土坑・不明遺構・ピット一覧(2)

遺構番号	調査区	旧番号	形状	最大長 (m)	最小長 (m)	深さ (cm)	埋土
P16	I区	LN38	不整形	0.56	0.45	13	暗褐色土
P17	I区	LN28	不整形	0.77	0.55	19	暗褐色土
P18	I区	LN39	不整形	0.7	0.56	20	暗褐色土
P19	I区	LN68	不整形	0.36	0.35	23	暗褐色土
P20	I区	LN14	不整形	0.56	0.35	31	暗褐色土 須恵器、土師器が出土
P21	I区	LN12	不整形	0.36	0.31	19	暗褐色土 須恵器、土師器が出土
P22	I区	LN69	不整形	0.48	0.34	10	暗褐色土
P23	I区	LN17	不整形	0.64	0.4	28	暗褐色土
P24	I区	LN29	隅丸方形	0.48	0.47	26	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P25	I区	LN13	不整形	0.73	0.44	20	暗褐色土
P26	I区	LN23-1	不整形	0.23	0.22	16	暗茶褐色土
P27	I区	LN23-2	不整形	0.58	0.37	31	暗茶褐色土
P28	I区	LN23-3	不整形	0.25	0.21	14	暗茶褐色土
P29	I区	LN23-4	不整形	0.47	0.45	9	暗茶褐色土
P30	I区	LN74	隅丸方形	0.21	0.21	10	暗褐色土
P31	I区	LN72	不整形	0.5	0.26	21	暗茶褐色土
P32	I区	LN94-1	不整形	0.44	0.27	12	暗褐色土
P33	I区	LN94	不整形	0.55	0.29	13	暗褐色土
P34	I区	LN15	不整形	(0.7)	0.56	16	暗茶褐色土
P35	I区	LN85	不整形	0.33	0.28	9	暗褐色土
P36	I区	LN86	不整形	0.28	0.21	8	暗褐色土
P37	I区	LN88	不整形	0.3	0.23	9	暗褐色土
P38	I区	LN90	不整形	0.75	0.29	6	暗褐色土
P39	I区	LN91	不整形	0.54	0.45	17	暗褐色土
P40	I区	LN92	不整形	0.39	0.25	9	暗褐色土
P41	I区	LN93	円形	0.41	0.41	13	暗褐色土
P42	I区	LN96	不整形	(0.28)	0.18	10	暗褐色土
P43	I区	LN97	不整形	0.47	(0.15)	7	暗褐色土
P44	I区	LN98	不整形	0.45	0.36	11	暗褐色土
P45	I区	LN101	不整形	0.25	0.23	10	暗褐色土
P46	I区	LN102	隅丸方形	0.46	0.44	9	暗褐色土
P47	I区	LN21	不整形	0.56	0.5	16	暗褐色土
P48	I区	LN11-10	不整形	0.49	0.47	30	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P49	I区	LN11-11	不整形	0.32	0.55	11	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P50	I区	LN11-9	不整形	0.48	0.34	12	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P51	I区	LN11-7	不整形	0.52	0.38	18	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P52	I区	LN11-6	不整形	0.49	0.42	9	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P53	I区	LN11-1	不整形	0.6	0.67	7	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P54	I区	LN11-5	隅丸方形	0.33	0.31	11	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P55	I区	LN11-4	不整形	0.71	0.14	8	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P56	I区	LN11-2	不整形	0.31	0.24	8	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P57	I区	LN11-8	隅丸方形	0.33	0.3	8	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P58	I区	LN11-13	不整形	0.36	0.31	8	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P59	I区	LN50	不整形	(0.43)	(0.18)	15	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P60	I区	LN11-16	不整形	0.32	0.2	20	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P61	I区	LN11-15	不整形	0.43	0.23	18	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P62	I区	LN11-14	不整形	0.38	0.29	13	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P63	I区	LN11-18	不整形	0.24	(0.18)	5	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P64	I区	LN11-12	不整形	0.33	0.14	0.4	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P65	I区	LN31	不整形	0.42	0.4	33	暗灰色粘質土に黄褐色土混
P66	I区	LN35	不整形	(0.54)	(0.52)	6	暗褐色土
P67	I区	LN25	不整形	(0.57)	(0.25)	13	暗茶褐色土
P68	I区	LN45	不整形	0.5	0.37	16	青色粘質土に茶黄色土混
P69	I区	LN40	不整形	0.5	(0.35)	16	青色粘質土に茶黄色土混
P70	I区	LN52	楕円形	0.4	0.35	10	青色粘質土に茶黄色土混
P71	I区	LN105	不整形	(0.35)	0.3	13	青色粘質土に茶黄色土混
P72	I区	LN46	不整形	(0.48)	(0.38)	15	青色粘質土に茶黄色土混
P73	I区	LN47	不整形	0.5	0.43	26	青色粘質土に茶黄色土混
P74	I区	LN56	不整形	0.68	0.64	20	青色粘質土に茶黄色土混
P75	I区	LN54	不整形	0.7	0.76	15	青色粘質土に茶黄色土混

第6表 NNS93-1土坑・不明遺構・ピット一覧(3)

遺構番号	調査区	旧番号	形状	最大長 (m)	最小長 (m)	深さ (cm)	埋土
P76	I区	LN55	隅丸方形	0.16	0.16	8	青色粘質土に茶黄色土混
P77	I区	LN42	不整形	0.65	0.56	15	青色粘質土に茶黄色土混
P78	I区	LN53	不整形	0.33	0.29	11	青色粘質土に茶黄色土混
P79	I区	LN57	不整形	0.37	0.35	12	青色粘質土に茶黄色土混
P80	I区	LN58	不整形	0.41	0.37	19	青色粘質土に茶黄色土混
P81	I区	LN59	不整形	0.32	0.32	13	青色粘質土に茶黄色土混
P82	I区	LN61	不整形	0.19	0.15	6	青色粘質土に茶黄色土混
P83	I区	LN62	不整形	0.29	0.29	8	青色粘質土に茶黄色土混
P84	I区	LN43	不整形	0.51	0.39	17	青色粘質土に茶黄色土混
P85	I区	LN106	不整形	0.55	0.4	9	青色粘質土に茶黄色土混
P86	I区	LN63	円形	0.32	0.32	26	青色粘質土に茶黄色土混
P87	I区	LN67	不整形	(0.38)	0.27	15	茶褐色土
P88	I区	LN66	不整形	0.63	0.49	16	茶褐色土
P89	I区	LN65	不整形	(0.59)	(0.23)	10	青色粘質土に茶黄色土混
P90	II区	LN14	隅丸方形	0.43	0.3	5	灰茶色土
P91	III区	LN12	不整形	0.74	0.46	6	茶灰色弱粘質土 (マンガン含む)
P92	IV区	LN23	不整形	0.23	0.2	5	茶灰色弱粘質土 (マンガン含む)
P93	IV区	LN21	不整形	0.42	0.28	10	茶灰色弱粘質土 (マンガン含む)
P94	IV区	LN20	不整形	0.52	0.48	9	茶灰色弱粘質土 (マンガン含む)
P95	IV区	LN19	不整形	0.26	0.16	4	茶灰色弱粘質土 (マンガン含む)
P96	IV区	LN32	不整形	(0.25)	(0.23)	7	暗茶灰色弱粘質土
P97	IV区	LN31	不整形	(0.15)	(0.12)	7	暗茶灰色弱粘質土
P98	IV区	LN12	不整形	(0.63)	(0.23)	6	茶灰色弱粘質土 (マンガン含む)
P99	IV区	LN13	不整形	(0.25)	(0.2)	5	茶灰色弱粘質土 (マンガン含む)
P100	IV区	LN11	不整形	(0.35)	0.24	11	茶灰色弱粘質土 (マンガン含む)
P101	IV区	LN30	不整形	0.2	0.1	4	灰青色弱粘質土 (マンガン含む)

3. 出土遺物 (第21図・第22図)

(1) 遺構出土遺物 (第21図)

SD5から土師器の坏(91)と甕(92、93)、SK5から須恵器坏蓋(102)、土師器が出土した。また、P12から土師器の坏(103)と甕、P20で土師器と須恵器坏身(105)、P21で須恵器坏身(106)と土師器(107)が出土した。

そのほか、SX3から須恵器甕(94)、土師器、平瓦が、SX4から須恵器坏身(95~97)、甕(98、99)、土師器、瓦が、SX7から須恵器坏蓋(100)、土師器、瓦(101)が、SX9から土師器甕(104)が出土した。

(2) 第2、第3水田面出土遺物 (第22図)

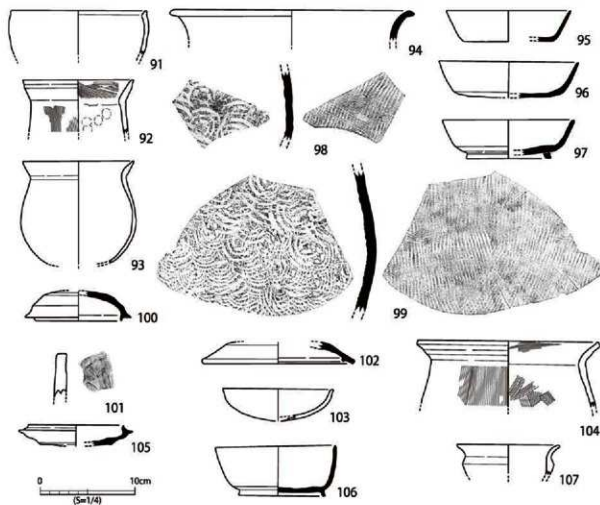
須恵器、土師器、瓦器、土師質土器、須恵質土器、瓦質土器、陶器、磁器、製塩土器、サヌカイト製の打製石器が出土した。

須恵器は、6世紀代の坏蓋(108~110)、坏身(116~118)、7世紀代の坏蓋(111~113)、甕(133~138)、壺底部(130)などがある。また8世紀代の坏蓋(114~115)、坏身(120~123)、瓶子(124~126)などがある。瓶子は高台の付くもの(125)と付かないもの(127)がある。底部に回転糸切りがある(132)は、器種はわからないが瓶子の可能性もある。これらのほか甕の体部片(139)が出土した。

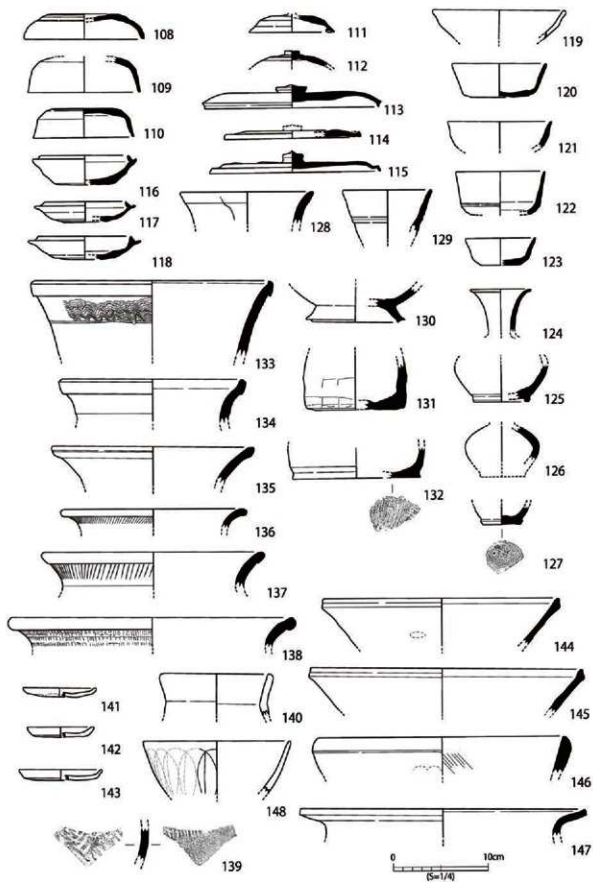
土師器には坏(119)、高坏、甕(140)などがあり、土師質土器には小皿(141~143)、火鉢がある。

須恵質土器には東播系の鍔鉢(144~145)がある。

瓦質土器には片口(146)がある。そのほか、中国製の青磁碗(148)と伊万里焼の染付が出土した。



第21図 NNS93-1出土遺物1(土器)



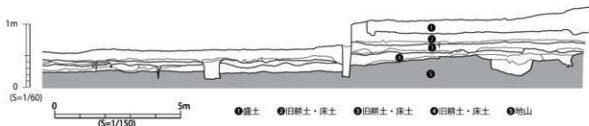
第22図 NNS93-1出土遺物2 (土器)

第6章 第4次調査の成果 (NNS94)

1. 調査概要

最終となる第4次調査の調査区は、第3次調査(NNS93-1)の西側に設定した(第1図)。調査対象は約1,300㎡で、調査区は幅約13m、長さ約105mと東西に細長い。1993(平成5)年度に試掘調査を実施し、1994(平成6)年8月29日から11月24日まで本調査を実施した。調査は用地の制約からI AからIV Cまで11の調査区に分けて実施したのち、工事に伴い撤去された水路部の調査を行った。

調査区の現況は数段の水田だが、一部で盛土整地されている。調査区西端では現代の耕作土を含めて2面の水田面、他は3面の水田面が認められるが、遺構はその下の地山面で検出している。(第23図)。



第23図 NNS94基本層序(南壁中央)

2. 遺構 (第24図・第7表～第11表)

(1) 溝状遺構

SD1 調査区の西部で検出した。長さ約5.6m、幅約0.7m、深さ約24cmを測る。埋土は茶褐色弱粘質土である。

SD2 調査区の西部で検出した水田の境界溝である。長さ約7.5m、幅約0.6m、深さ約3cmを測る。埋土は灰黄色弱粘質土である。

SD3 調査区の西部で検出した。長さ約1.8m、幅約0.6m、深さ約6cmを測る。南北の比高は約0.03mで南に流れる。埋土は灰黄色弱粘質土である。

SD4 調査区の西部で検出した。長さ約3.9m、幅約0.7m、深さ約6cmを測る。埋土は灰青黄色粘質土である。

SD5 調査区の西部で検出した。長さ約1.8m、幅約0.5m、深さ約9cmを測る。埋土は灰青黄色粘質土である。

SD6 調査区の中央部西よりで検出した。長さ3.1m、幅約0.7m、深さ約15cmを測る。埋土は濁灰青黄色弱粘質土である。

SD7 調査区の東部で検出した。長さ約1.5m、幅約0.34m、深さ約16cmを測る。埋土は灰黄色弱粘質土である。

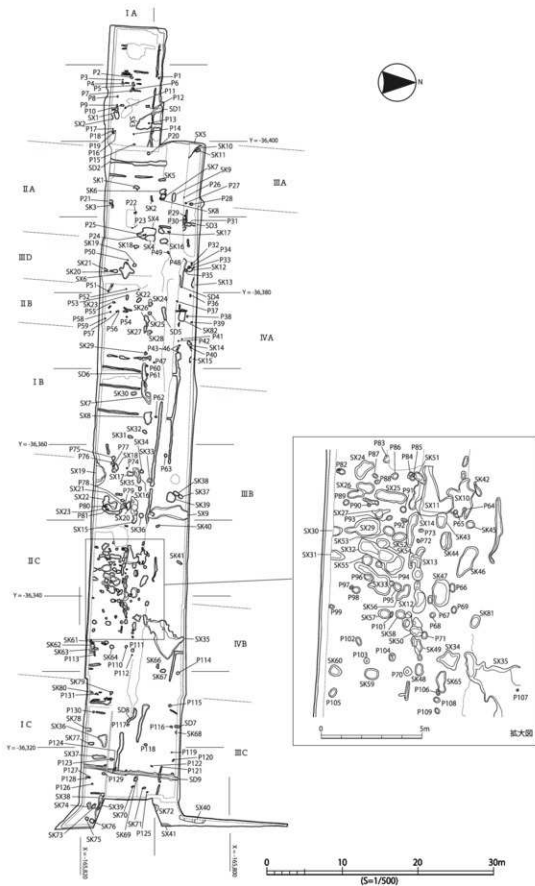
SD8 調査区の東部で検出した。長さ約2.3m、幅は約0.5m、深さ約20cmを測る。埋土は濁灰褐色弱粘質土である。

SD9 調査区の東部で検出した水田の境界溝である。長さ約12.7m、幅約1.1m、深さ約33cmを測る。埋土は濁灰青黄色粘質土である。

鋤溝 そのほか鋤溝を67条検出した。

(2) 土坑・不明遺構・ピット

土坑(SK1～81)、ピット(P1～131)、不明遺構(SX1～41)を検出した。それぞれの規模、形状、埋土などは第7表から第11表にまとめた。



第24図 NNS94調査区平面図(第4次調査)

第7表 NNS94土坑・不明遺構一覧(1)

遺構番号	調査区	旧番号	形状	最大長(m)	最小長(m)	深さ(cm)	埋土
SK1	Ⅱ-A	LN55	不整形	0.85	0.66	25	濁灰褐色弱粘質土
SK2	Ⅱ-A	LN56	不整形	0.87	0.21	13	濁灰褐色弱粘質土
SK3	Ⅱ-A	LN58	不整形	(0.63)	(0.26)	9	灰黄色弱粘質土
SK4	Ⅱ-A	LN62	不整形	1.39	(0.73)	12	灰青色弱粘質土
SK5	Ⅲ-A	LN63	不整形	0.93	0.29	22	茶褐色弱粘質土
SK6	Ⅲ-A	LN64	不整形	0.97	0.94	15	茶褐色弱粘質土
SK7	Ⅲ-A	LN65	不整形	0.64	0.61	13	濁灰茶色弱粘質土
SK8	Ⅲ-A	LN66	不整形	0.66	0.24	5	濁灰青色弱粘質土
SK9	Ⅲ-A	LN67	不整形	(1.14)	0.5	21	濁灰青色弱粘質土
SK10	Ⅲ-A	LN69	不整形	(0.76)	(0.24)	9	濁灰茶色弱粘質土
SK11	Ⅲ-A	LN70	不整形	0.59	0.39	10	濁灰黄色土
SK12	Ⅳ-A	LN84	不整形	0.77	0.52		灰黄色土
SK13	Ⅳ-A	LN86	不整形	(1.38)	(0.35)	7	灰黄色弱粘質土
SK88	Ⅳ-A	LN90	不整形	1.59	0.87	9	灰黄色土
SK14	Ⅳ-A	LN95	不整形	(0.95)	0.46	18	濁茶褐色土
SK15	Ⅳ-A	LN96	不整形	(0.74)	(0.24)	7	濁茶褐色土
SK16	Ⅳ-A	LN108	不整形	1.04	0.66	21	灰黄色土
SK17	Ⅳ-A	LN110	不整形	0.87	0.6	8	灰青色粘質土
SK18	Ⅲ-D	LN112	不整形	0.73	0.51	13	灰黄色弱粘質土
SK19	Ⅲ-D	LN113	不整形	0.49	0.43	15	茶褐色弱粘質土
SK20	Ⅲ-D	LN116	不整形	1.05	0.47	25	茶褐色弱粘質土
SK21	Ⅲ-D	LN117	不整形	(0.67)	0.32	10	茶褐色弱粘質土
SK22	Ⅱ-B	LN122	不整形	0.76	0.42	20	灰黄色弱粘質土にマンガン混
SK23	Ⅱ-B	LN123	不整形	0.67	0.3	30	灰黄色弱粘質土にマンガン混
SK24	水路内	LN133	不整形	1.02	0.59	13	濁灰茶黄色弱粘質土
SK25	水路内	LN134	不整形	0.48	0.44		濁灰茶黄色弱粘質土
SK26	水路内	LN135	不整形	1.44	0.6	7	濁茶褐色弱粘質土
SK27	水路内	LN136	不整形	0.9	0.41	12	濁灰黄色弱粘質土
SK28	水路内	LN137	不整形	0.68	0.64	15	濁灰茶黄色弱粘質土
SK29	水路内	LN138	不整形	0.5	0.44	6	濁灰黄色弱粘質土
SK30	I-B	LN149	不整形	0.76	0.48	21	灰黄色土
SK31	I-B	LN151	不整形	0.71	0.39	14	灰黄色土
SK32	Ⅲ-B	LN156	不整形	0.68	0.4	14	濁黄茶色弱粘質土
SK33	Ⅲ-B	LN157	不整形	0.63	0.6	28	濁灰青色弱粘質土
SK34	Ⅲ-B	LN158	不整形	0.48	0.47	11	濁茶褐色弱粘質土
SK35	Ⅲ-B	LN159	不整形	0.59	0.4	8	濁茶褐色弱粘質土
SK36	Ⅲ-B	LN160	不整形	0.62	0.57	12	灰黄色弱粘質土
SK37	Ⅲ-B	LN163	不整形	0.62	0.48	13	濁灰青色弱砂質粘質土に黄色土混
SK38	Ⅲ-B	LN164	不整形	0.82	0.53	19	濁灰青色弱砂質粘質土に黄色土混
SK39	Ⅲ-B	LN165	不整形	0.26	0.19	21	濁灰青色弱砂質粘質土に黄色土混
SK40	Ⅲ-B	LN167	不整形	0.55	0.27	7	濁灰茶色弱砂質粘質土
SK41	Ⅲ-B	LN168	不整形	0.79	0.28	12	濁灰青色粘質土
SK42	Ⅲ-B	LN172	不整形	0.75	0.26	14	濁灰青色弱砂質粘質土
SK43	Ⅲ-B	LN177	不整形	0.7	0.5	14	濁灰茶色弱砂質粘質土
SK44	Ⅲ-B	LN178	不整形	0.87	0.38	08	濁灰茶色弱砂質粘質土
SK45	Ⅲ-B	LN180	不整形	0.43	0.4	20	濁灰青色粘質土
SK46	Ⅲ-B	LN181	不整形	1.7	0.72	29	濁灰黄色弱砂質粘質土
SK47	Ⅲ-B	LN183	不整形	1.32	0.85	47	濁灰青色弱砂質粘質土
SK48	水路内	LN190	不整形	0.59	0.37	10	灰黄色弱砂質粘質土
SK49	水路内	LN191	不整形	1.24	0.45	5	灰黄色弱砂質粘質土
SK50	水路内	LN193	不整形	1.38	0.82		灰黄色弱砂質粘質土
SK51	水路内	LN201	不整形	(0.72)	0.38	9	灰黄色弱砂質粘質土
SK52	Ⅱ-C	LN239	不整形	0.7	0.44	19	濁灰黄色弱粘質土
SK53	Ⅱ-C	LN240	不整形	0.56	0.44	19	濁灰黄色弱粘質土
SK54	Ⅱ-C	LN245	不整形	0.66	(0.47)	20	濁灰黄色弱粘質土
SK55	Ⅱ-C	LN247	不整形	(0.51)	0.51	14	濁灰黄色弱粘質土
SK56	Ⅱ-C	LN250	不整形	0.95	0.39	15	濁灰茶黄色弱粘質土
SK57	Ⅱ-C	LN254	不整形	0.6	0.47	24	濁灰黄色弱粘質土
SK58	Ⅱ-C	LN256	不整形	0.49	0.43	13	濁灰茶黄色弱粘質土
SK59	Ⅱ-C	LN260	不整形	0.7	0.55	10	濁灰黄色弱粘質土
SK60	Ⅱ-C	LN261	不整形	0.6	0.5	13	濁灰茶黄色弱粘質土
SK61	Ⅱ-C	LN272	不整形	0.52	0.37	17	濁灰黄色弱粘質土

第8表 NNS94土坑・不明遺構一覽(2)

遺構番号	調査区	旧番号	形状	最大長(m)	最小長(m)	深さ(cm)	埋土
SK62	Ⅱ-C	LN265	不整形	0.61	0.55	29	濁灰黄色弱粘質土
SK63	Ⅱ-C	LN266	不整形	0.62	0.29	18	濁灰黄色弱粘質土
SK64	Ⅱ-C	LN273	不整形	0.59	0.51	15	濁灰茶黄色弱粘質土
SK65	Ⅳ-B	LN280	不整形	1.08	0.46	13	青灰色土
SK66	Ⅳ-B	LN283	不整形	0.6	0.3	8	灰黄色弱粘質土に茶色土混
SK67	Ⅳ-B	LN284	不整形	0.75	0.46	17	灰黄色弱粘質土に茶色土混
SK68	Ⅲ-C	LN291	不整形	0.4	0.11	10	濁茶褐色弱粘質土
SK69	Ⅲ-C	LN300	不整形	0.74	0.52	24	濁茶褐色弱粘質土
SK70	Ⅲ-C	LN301	不整形	0.43	0.17	12	灰青色弱粘質土
SK71	Ⅲ-C	LN302	不整形	0.52	0.22		濁茶灰色弱粘質土
SK72	Ⅲ-C	LN311	不整形	(0.82)	(0.54)	22	濁青灰色弱粘質土
SK73	I-C	LN317	不整形	0.74	0.42	12	灰青色弱粘質土
SK74	I-C	LN316	不整形	0.92	0.5	12	灰青色弱粘質土
SK75	I-C	LN315	不整形	0.42	0.41	5	灰青色弱砂質粘質土
SK76	I-C	LN314	不整形	0.53	0.51	7	灰青色弱砂質粘質土
SK77	I-C	LN327	不整形	0.7	0.35	7	灰青色弱砂質粘質土
SK78	I-C	LN328	不整形	(0.45)	0.45	16	灰青色弱砂質粘質土
SK79	I-C	LN333	不整形	0.57	0.39	4	濁灰黄色土
SK80	I-C	LN336	不整形	(0.48)	(0.34)	4	濁灰黄色土
SK81	Ⅲ-B	LN187	不整形	0.66	0.42	19	濁灰青色弱砂質粘質土
SX 1	I-A	LN37	不整形	1.03	0.62	6	灰黄色弱粘質土
SX 2	I-A	LN36	不整形	(0.63)	(0.29)	4	灰黄色弱粘質土
SX 3	I-A	LN40	不整形	(2.32)	1.67	10	灰黄色弱粘質土
SX 4	Ⅱ-A	LN61	不整形	2.6	(1.12)	22	濁茶褐色弱粘質土
SX 5	Ⅲ-A	LN68	不整形	(1.95)	(1.47)	15	濁灰青色弱粘質土
SX 6	Ⅲ-D	LN115	不整形	2.24	2.0	46	茶褐色弱粘質土
SX 7	水路C	LN143	不整形	3.24	1.12	18	濁茶褐色弱粘質土
SX 8	Ⅲ-B	LN153	不整形	1.77	1.07	23	濁黄茶色弱粘質土
SX 9	Ⅲ-B	LN166	不整形	(5.32)	1.08 ~ 1.55	47	濁茶褐色弱粘質土
SX10	Ⅲ-B	LN173	不整形	2.0	(0.97)	13	濁灰青色弱砂質粘質土
SX11	Ⅲ-B	LN176	不整形	(2.47)	1.65	12	濁灰青色弱砂質粘質土
SX12	水路A・B	LN196	不整形	1.62	0.54		灰黄色弱砂質粘質土
SX13	水路A・B	LN197	不整形	1.67	0.6		灰黄色弱砂質粘質土
SX14	水路A・B	LN200	不整形	(1.44)	0.42	12	灰黄色弱砂質粘質土
SX15	水路A・B	LN202	不整形	3.6	0.92	62	濁茶褐色弱粘質土
SX16	水路A・B	LN203	不整形	2.15	0.64	21	濁茶褐色弱粘質土
SX17	Ⅱ-C	LN204	不整形	0.89	0.65	37	濁茶褐色弱粘質土
SX18	Ⅱ-C	LN209	不整形	1.27	0.7	47	濁茶褐色弱粘質土
SX19	Ⅱ-C	LN210	不整形	2.53	1.3	3	濁茶褐色弱粘質土
SX20	Ⅱ-C	LN213	不整形	1.2	0.56	7	濁灰黄色弱粘質土
SX21	Ⅱ-C	LN215	不整形	(0.92)	0.75	15	濁灰黄色弱粘質土
SX22	Ⅱ-C	LN216	不整形	2.02	0.28 ~ 1.44	25	濁灰黄色弱粘質土
SX23	Ⅱ-C	LN219	不整形	2.86	0.45	15	濁灰黄色弱粘質土
SX24	Ⅱ-C	LN222	不整形	1.07	0.6	14	濁灰黄色弱粘質土
SX25	Ⅱ-C	LN229	不整形	1.58	0.53	16	濁灰茶黄色弱粘質土
SX26	Ⅱ-C	LN230	不整形	1.4	0.58	23	濁灰黄色弱粘質土
SX27	Ⅱ-C	LN234	不整形	0.9	0.44	13	濁灰黄色弱粘質土
SX28	Ⅱ-C	LN238	不整形	1.78	0.43	15	濁灰黄色弱粘質土
SX29	Ⅱ-C	LN241	不整形	1.73	0.88	17	濁灰黄色弱粘質土
SX30	Ⅱ-C	LN242	不整形	(0.48)	(0.42)	25	濁灰黄色弱粘質土
SX31	Ⅱ-C	LN243	不整形	(0.51)	0.48	22	濁灰黄色弱粘質土
SX32	Ⅱ-C	LN244	不整形	2.5	1.04	36	濁灰黄色弱粘質土
SX33	Ⅱ-C	LN248	不整形	2.2	0.91	20	濁灰黄色弱粘質土
SX34	Ⅳ-B	LN281	不整形	1.16	1.04	26	濁灰茶色粘質土
SX35	Ⅳ-B	LN282	不整形	6.2	(3.6)	24	濁茶褐色粘質土
SX36	I-C	LN326	不整形	1.15	0.9	14	灰青色弱砂質粘質土
SX37	I-C	LN325	不整形	1.85	0.58	12	灰青色弱砂質粘質土
SX38	I-C	LN319	不整形	(2.41)	(0.53)	33	灰青色弱砂質粘質土
SX39	I-C	LN318	不整形	(2.93)	(0.52)	25	灰茶色弱砂質粘質土
SX40	Ⅲ-C	LN312	不整形	3.52	(0.48)	33	灰黄色粘質土
SX41	Ⅲ-C	LN313	不整形	(1.26)	(0.35)	9	濁灰黄色弱粘質土

第9表 NNS94ピット一覧(1)

遺構番号	調査区	旧番号	形状	最大長 (m)	最小長 (m)	深さ (cm)	埋土
P1	I-A	LN13	不整形	0.31	0.15	15	茶褐色弱粘質土
P2	I-A	LN25	不整形	0.45	0.29	7	灰黄色弱粘質土
P3	I-A	LN22	槽円形	0.11	0.1	11	茶褐色弱粘質土
P4	I-A	LN23	不整形	0.46	0.28	9	茶褐色弱粘質土
P5	I-A	LN28	不整形	0.55	0.4	3	灰黄色弱粘質土
P6	I-A	LN30	不整形	0.18	0.17	5	灰黄色弱粘質土
P7	I-A	LN32	不整形	0.4	0.34	4	灰黄色弱粘質土
P8	I-A	LN33	不整形	0.25	0.16	12	灰黄色弱粘質土
P9	I-A	LN34	不整形	0.25	0.14	5	灰黄色弱粘質土
P10	I-A	LN38	不整形	0.45	0.24	7	灰黄色弱粘質土
P11	I-A	LN39	不整形	0.24	0.16	14	茶褐色弱粘質土
P12	I-A	LN41	不整形	0.5	0.25	12	茶褐色弱粘質土
P13	I-A	LN43	不整形	0.18	0.16	05	茶褐色弱粘質土
P14	I-A	LN45	不整形	0.2	0.14	4	灰黄色弱粘質土
P15	I-A	LN46	不整形	0.26	0.16	19	茶褐色弱粘質土
P16	I-A	LN47	不整形	0.12	0.11	5	灰黄色弱粘質土
P17	I-A	LN48	不整形	0.15	0.11	5	灰黄色弱粘質土
P18	I-A	LN49	不整形	0.14	0.13	4	灰黄色弱粘質土
P19	I-A	LN50	不整形	0.36	0.21	5	灰黄色弱粘質土
P20	II-A	LN51	不整形	0.37	0.37	3	灰黄色弱粘質土
P21	II-A	LN57	不整形	(0.52)	0.49	22	濁灰黄茶色弱粘質土にマンガン混
P22	II-A	LN59	不整形	0.34	0.33	20	濁灰褐色弱粘質土
P23	II-A	LN60	不整形	0.17	0.14	9	濁灰褐色弱粘質土
P24	II-A	LN61-1	不整形	0.23	0.16	7	濁茶褐色弱粘質土
P25	II-A	LN61-2	不整形	0.14	0.09	13	濁茶褐色弱粘質土
P26	III-A	LN71	不整形	0.2	(0.12)	6	茶褐色弱粘質土
P27	III-A	LN72	不整形	0.27	0.19	13	茶褐色弱粘質土
P28	III-A	LN73	不整形	0.47	0.33	13	茶褐色弱粘質土
P29	IV-A	LN75	不整形	0.17	0.13	11	灰茶色土
P30	IV-A	LN76	不整形	(0.44)	(0.13)	8	灰茶色土
P31	IV-A	LN77	不整形	0.12	0.06	3	灰黄色土
P32	IV-A	LN81	不整形	0.34	0.2	5	灰黄色土
P33	IV-A	LN82	不整形	0.25	0.12	2	灰黄色土
P34	IV-A	LN83	不整形	0.35	0.22	8	灰黄色土
P35	IV-A	LN85	不整形	0.37	0.27	9	灰黄色土
P36	IV-A	LN87	不整形	0.38	0.17	8	灰黄色土
P37	IV-A	LN88	不整形	0.22	0.17	6	灰黄色土
P38	IV-A	LN92	不整形	0.3	0.17	5	灰黄色土
P39	IV-A	LN93	不整形	0.22	0.21	6	灰黄色土
P40	IV-A	LN95-1	不整形	0.18	0.18	1	濁茶褐色土
P41	IV-A	LN97	不整形	0.16	0.16	7	灰黄色土
P42	IV-A	LN98	不整形	0.18	0.14	6	灰黄色土
P43	IV-A	LN99	不整形	0.27	0.17	9	灰黄色土
P44	IV-A	LN100	不整形	0.26	0.23	10	灰黄色土
P45	IV-A	LN101	不整形	0.22	0.15	5	灰黄色土
P46	IV-A	LN102	不整形	0.16	0.14	7	灰黄色土
P47	IV-A	LN104	不整形	0.22	0.17	2	灰青黄色粘質土
P48	IV-A	LN106	不整形	0.12	0.11	2	灰茶色土
P49	IV-A	LN107	不整形	0.29	0.22	8	灰茶色土
P50	III-D	LN114	不整形	0.17	0.15	6	茶褐色弱粘質土
P51	II-B	LN119	不整形	0.29	0.17	5	濁灰茶色弱粘質土にマンガン混
P52	II-B	LN120	不整形	0.15	0.14	9	灰黄色弱粘質土にマンガン混
P53	II-B	LN121	不整形	0.18	0.14	5	灰青色弱粘質土
P54	II-B	LN126	不整形	0.22	0.2	3	灰黄色弱粘質土にマンガン混
P55	II-B	LN127	不整形	0.36	0.22	4	灰黄色弱粘質土
P56	II-B	LN129	不整形	0.23	0.1	2	濁灰茶色弱粘質土にマンガン混
P57	II-B	LN130	不整形	0.23	0.15	6	濁灰茶色弱粘質土にマンガン混
P58	II-B	LN131	不整形	0.19	0.15	7	濁灰茶色弱粘質土にマンガン混
P59	II-B	LN132	不整形	0.24	0.13	6	
P60	水路C	LN140	不整形	0.27	0.25	9	濁茶褐色弱粘質土
P61	水路C	LN142	不整形	0.34	0.26	16	濁茶褐色弱粘質土
P62	III-B	LN154	不整形	0.34	0.23	10	濁灰青色弱粘質土

第10表 NNS94ピット一覧(2)

遺構番号	調査区	旧番号	形状	最大長 (m)	最小長 (m)	深さ (cm)	埋土
P63	Ⅲ-B	LN162	不整形	0.44	0.38	11	濁灰青色弱砂質粘質土
P64	Ⅲ-B	LN174	不整形	0.18	0.17	16	濁灰茶色弱砂質粘質土
P65	Ⅲ-B	LN175	不整形	0.21	0.21	13	濁灰茶色弱砂質粘質土
P66	Ⅲ-B	LN182	不整形	0.43	0.28	12	濁灰青色弱砂質粘質土
P67	Ⅲ-B	LN184	不整形	0.41	0.23	13	濁灰茶色弱砂質粘質土
P68	Ⅲ-B	LN185	不整形	0.25	0.26	3	濁灰茶色弱砂質粘質土
P69	Ⅲ-B	LN186	不整形	0.35	0.24	6	濁灰青色弱砂質粘質土
P70	水路内	LN189	不整形	0.44	0.43		灰黄色弱砂質粘質土
P71	水路内	LN192	不整形	0.36	0.3	9	灰黄色弱砂質粘質土
P72	水路内	LN198	不整形	0.19	0.12		灰黄色弱砂質粘質土
P73	水路内	LN199	不整形	0.23	0.15		灰黄色弱砂質粘質土
P74	Ⅱ-C	LN205	不整形	0.22	0.22	5	濁灰黄色弱粘質土
P75	Ⅱ-C	LN206	不整形	0.63	0.47	3	濁灰黄色弱粘質土
P76	Ⅱ-C	LN207	不整形	0.57	0.35	4	濁灰黄色弱粘質土
P77	Ⅱ-C	LN208	不整形	0.22	0.17	5	濁灰黄色弱粘質土
P78	Ⅱ-C	LN212	不整形	0.52	0.37	25	濁灰黄色弱粘質土
P79	Ⅱ-C	LN214	不整形	0.41	(0.36)	19	濁茶褐色弱粘質土
P80	Ⅱ-C	LN217	不整形	0.25	0.24	4	濁灰黄色弱粘質土
P81	Ⅱ-C	LN218	不整形	0.27	0.22	4	濁灰黄色弱粘質土
P82	Ⅱ-C	LN221	不整形	0.44	0.29	5	濁灰黄色弱粘質土
P83	Ⅱ-C	LN223	不整形	0.38	0.3	11	濁灰黄色弱粘質土
P84	Ⅱ-C	LN224	不整形	0.35	0.18	4	濁灰黄色弱粘質土
P85	Ⅱ-C	LN225	不整形	0.27	0.23	7	濁灰黄色弱粘質土
P86	Ⅱ-C	LN226	不整形	0.34	0.32	13	濁灰黄色弱粘質土
P87	Ⅱ-C	LN227	不整形	0.27	0.18	4	濁灰黄色弱粘質土
P88	Ⅱ-C	LN228	不整形	0.25	0.18	4	濁灰黄色弱粘質土
P89	Ⅱ-C	LN231	不整形	0.28	0.26	5	濁灰黄色弱粘質土
P90	Ⅱ-C	LN233	不整形	0.17	(0.16)	4	濁灰黄色弱粘質土
P91	Ⅱ-C	LN236	不整形	0.33	0.28	9	濁灰茶黄色弱粘質土
P92	Ⅱ-C	LN237	不整形	0.32	0.15	4	濁灰黄色弱粘質土
P93	Ⅱ-C	LN235	不整形	0.29	0.22	5	濁灰黄色弱粘質土
P94	Ⅱ-C	LN246	不整形	0.32	0.28	8	濁灰黄色弱粘質土
P95	Ⅱ-C	LN249	不整形	0.42	0.35	13	濁暗茶黄色弱粘質土
P96	Ⅱ-C	LN338	不整形	0.46	0.31	13	濁暗茶黄色弱粘質土
P97	Ⅱ-C	LN252	不整形	0.21	0.13	3	濁灰黄色弱粘質土
P98	Ⅱ-C	LN251	不整形	0.4	0.32	7	濁灰黄色弱粘質土
P99	Ⅱ-C	LN339	不整形	(0.17)	(0.05)		濁灰黄色弱粘質土
P100	Ⅱ-C	LN253	不整形	(0.23)	0.18	4	濁灰黄色弱粘質土
P101	Ⅱ-C	LN255	不整形	0.3	0.12	10	濁灰黄色弱粘質土
P102	Ⅱ-C	LN258	不整形	0.43	0.24	11	濁灰黄色弱粘質土
P103	Ⅱ-C	LN259	不整形	0.3	0.28	12	濁灰黄色弱粘質土
P104	Ⅱ-C	LN257	不整形	0.39	0.31	14	濁灰黄色弱粘質土
P105	Ⅱ-C	LN262	不整形	0.46	0.31	11	濁灰茶黄色弱粘質土
P106	Ⅳ-B	LN279	不整形	0.3	0.13	9	青灰色土
P107	Ⅳ-B	LN282-1	不整形	0.14	0.1	5	濁茶褐色粘質土
P108	Ⅳ-B	LN278	不整形	0.31	0.25	8	青灰色土
P109	Ⅳ-B	LN277	不整形	0.28	0.25	7	青灰色土
P110	Ⅳ-B	LN274	不整形	0.39	0.27	5	青灰色土
P111	Ⅳ-B	LN275	不整形	0.42	0.37	7	青灰色土
P112	Ⅳ-B	LN276	不整形	0.16	0.11	9	青灰色土
P113	Ⅱ-C	LN268	不整形	0.4	0.2	3	濁灰黄色弱粘質土
P114	Ⅳ-B	LN286	不整形	0.4	0.37	7	灰黄色弱粘質土
P115	Ⅱ-C	LN287	不整形	0.37	0.24	4	灰黄色弱粘質土
P116	Ⅱ-C	LN290	不整形	0.34	0.26	18	灰黄色弱粘質土
P117	Ⅱ-C	LN294	不整形	0.37	0.29	9	濁茶灰色弱粘質土
P118	Ⅱ-C	LN306	不整形	0.44	0.27	8	濁茶灰色弱粘質土
P119	Ⅱ-C	LN308	不整形	0.24	0.08	6	濁茶灰色弱粘質土
P120	Ⅱ-C	LN309	不整形	0.37	0.19	7	濁茶灰色弱粘質土
P121	Ⅱ-C	LN310	不整形	0.18	0.17	7	灰黄色弱粘質土
P122	Ⅱ-C	LN307	不整形	0.32	0.12	17	濁茶灰色弱粘質土
P123	Ⅱ-C	LN296	不整形	0.46	0.3	5	濁灰茶色弱砂質粘質土
P124	Ⅱ-C	LN298	不整形	0.34	0.2	5	灰青色弱粘質土

第11表 NNS94ピット一覧(3)

遺構番号	調査区	旧番号	形状	最大長 (m)	最小長 (m)	深さ (cm)	埋土
P125	Ⅲ-C	LN303	不整形	0.26	0.12		褐色灰色弱粘質土
P126	I-C	LN323	不整形	0.2	0.17	6	灰青色弱砂質粘質土
P127	I-C	LN322	不整形	0.23	0.21	5	灰青色弱砂質粘質土
P128	I-C	LN321	不整形	(0.38)	0.22	4	灰青色弱砂質粘質土
P129	I-C	LN324	不整形	0.44	0.32	8	灰青色弱砂質粘質土
P130	I-C	LN330	不整形	0.25	0.2	4	褐色黄色土
P131	I-C	LN335	不整形	0.43	0.21	4	褐色黄色土

3. 出土遺物 (第25図・第26図)

(1) 遺構出土遺物

遺構から出土した遺物はほとんどが細片で、図化できたものはSK73で出土した須恵器の坏蓋(150)のみであった。

(2) その他の遺物

水田の耕作土などから、須恵器、土師器、陶器、磁器、丸瓦、円盤状土製品、土製人形、サヌカイト製の石器などが出土している。

須恵器では、坏蓋(149)、坏身(151・152)、壺口縁部(153)、甕口縁部(154)がある。(151)は底部に一直線のヘラ記号がある。(153)には「く」の字を組み合わせたような文様がつけられているが、小片のため文様の詳細はわからない。

土師器では、小皿(155・156)、羽釜(157～159)がある。小皿は口縁に煤が付着していることから燈明皿であろう。

磁器では、白磁碗(161)、青磁碗(162～164)のほか産地不明の高台部(160・166)、磁器碗(169～171)がある。青磁碗は灰オリーブ色の釉薬がかかるもので輸入磁器であろう。(171)は模様がプリントで付けられ、(169)は碗底に字体の崩れた「大明年製」銘が入る。

陶器は、高台(165・167)、摺鉢(168)がある。

瓦(175・176)はいずれも玉縁がつくタイプで、内面に布の圧痕が残る。そのほか、瓦質管(172～174)が出土している。

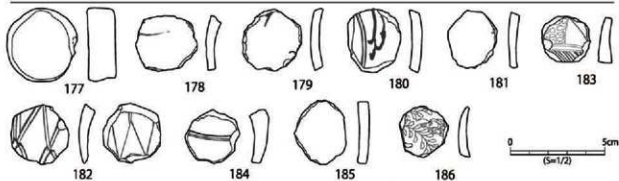
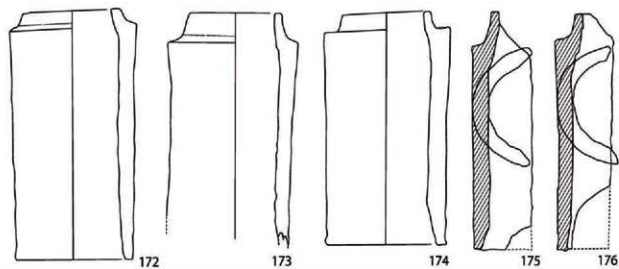
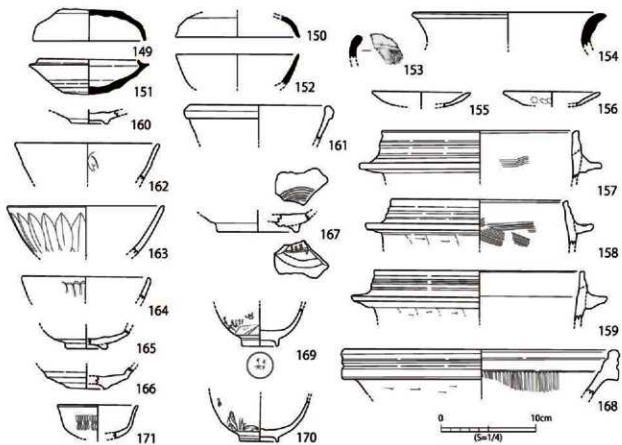
円盤状土製品(177～186)は陶器や磁器片などを転用し、周囲を打ち欠いて円盤状に仕上げたものだが、用途は不明である。なお、(177)は瓦、(178)は白磁からの転用である。

土製人形は2点ある。(187)は笠を掛けているようであるが小片のため全体像は不明である。(188)は笏を手にしており天神とみられる。

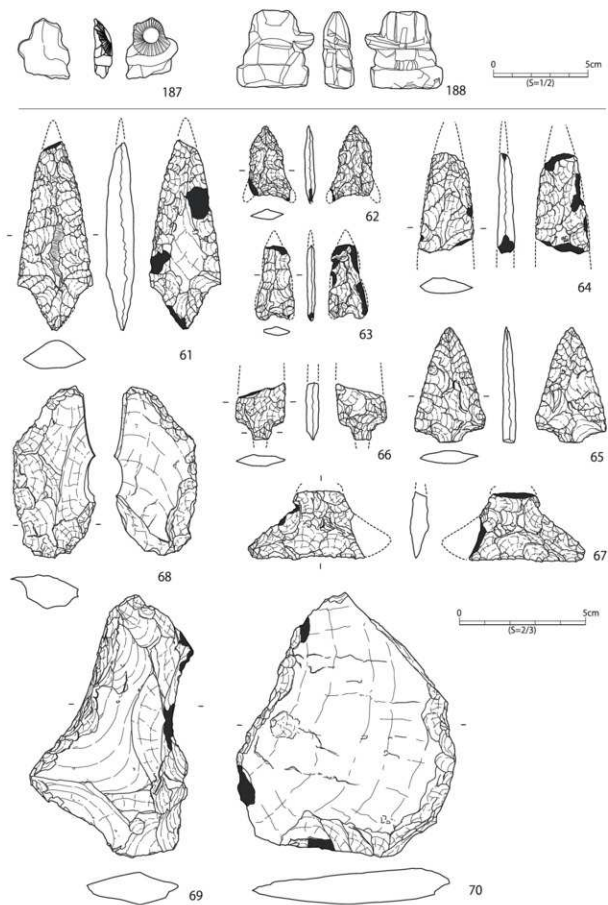
サヌカイト製の石器には、有舌尖頭器、石鏃、削器などがある。

有舌尖頭器(61)は断面菱形でA面背部にわずかに原石面を残す。石鏃は凹基無茎式(62・63)と有茎式(65・66)がある。(64)は基部を欠いているがプロポジションからみて有茎式であろう。石匙(67)は横型である。

また、細部調整が施されている剥片類を削器として取りあげる(68～70)。(68)はA面全体に細部調整を施すがB面は大きな剥離面が残る。小型尖頭器の未製品かもしれない。(69)は1辺に細部調整が加えられているが一部に稜面も残しており、翼状剥片石核とも考えられる。(70)は2辺に両面から細部調整を施している。



第25圖 NNS94出土遺物1 (土器・瓦・土製品)



第26図 NNS94出土遺物 2 (土製品・石器)

图 版



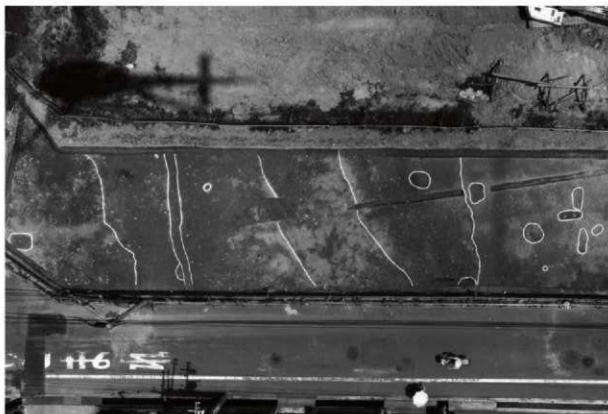
調査地遠景（東から）



NNS91-3 第1区全景（東から）



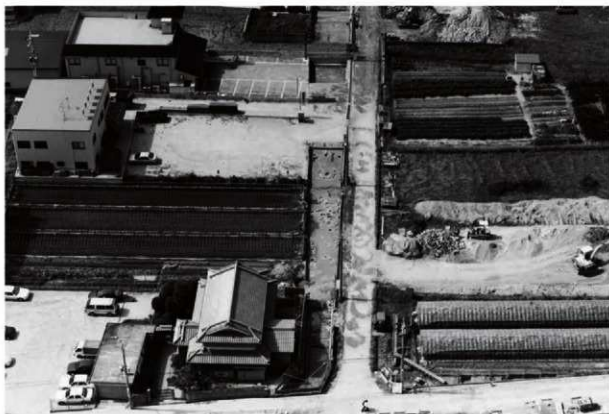
NNS92 調査区全景 (南から)



NNS92 SD12・SD14 拡大 (直上から)



NNS93-1 I区全景（南から）



NNS94 IC・IIA・IIB・IIC区全景（東から）



NNS91-3 SX4・SX6 遺物出土状況



出土遺物（須恵器）





出土遺物（須恵器・土師器）



出土遺物（石器・石製品）

報告書抄録

ふりがな	なかのいせき							
書名	中野遺跡							
副書名	都市計画道路若松西線建設に伴う発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	富田林市文化財調査報告							
シリーズ番号	86							
編著者名	青木 昭和							
編集機関	富田林市教育委員会							
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 TEL 0721-25-1000 (代)							
発行年月日	2024 (令和6) 年2月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
なかのいせき	わかまつちょうにし いっちょうめ	27214	16	34° 30′ 23″	135° 36′ 5″	19910401 ～ 19940331	3,835 m ²	記録保存調査 (道路建設)
中野遺跡	若松町西一丁目							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
中野遺跡	集落跡	縄文～近世	溝 土坑 ピット	縄文土器 須恵器 土師器 陶器 石器	溝の下層から縄文時代晩期の土器が出土した。			

中野遺跡

- 都市計画道路若松西線建設に伴う発掘調査報告 -

発行年月日 2024年2月29日
編集・発行 富田林市教育委員会
住 所 富田林市常盤町1番1号
印 刷 S T総合広告